

基本計画 重点プログラム

市民アンケート報告書

（政策評価委員会資料）

平成29年（2017年）7月

横 須 賀 市

は じ め に

横須賀市では、平成 10 年に策定した横須賀市総合計画に基づき、「国際海の手文化都市」を目指したまちづくりを進めています。

平成 23 年 4 月からは、市の基本的な政策・施策の体系、政策の目標などを示した、新たな基本計画がスタートしています。

この基本計画では、計画期間中に、特に重点的・優先的に実行する取り組みとして、持続可能な発展に必要な都市力の向上を目的とした「重点プログラム」を位置付けています。

今回、重点プログラムの目的、各プログラムの取り組みの方向性に対する市民の皆さまの実感を伺うアンケート調査を実施しました。(15 歳以上の 2,000 人の方が対象) 本調査は、平成 23 年度から継続して実施しているものです。

調査で得られた結果は、重点政策・施策評価や政策展開を検討する上での基礎資料として、十分に活用してまいります。

本調査にご協力いただきました皆さまには、厚くお礼申し上げます。

平成 29 年（2017 年）7 月

横須賀市都市政策研究所

報 告 書 の 見 方

1. 基本計画重点プログラム市民アンケートでは、各重点プログラムが実現を目指す都市の姿、その都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、以下のとおり設問し、実感を尋ねている。(P64 アンケート調査票参照)

(1) 現在について

重点プログラムの取り組みの方向性で掲げる状態にあるか

⇒「①思う」「② やや思う」「③どちらともいえない」「④ あまり思わない」「⑤思わない」の5段階と、「⑥わからない」を設定

(2) 以前との比較

重点プログラムの取り組みの方向性に向かって

⇒「①よくなっている」「②どちらかというとよくなっている」「③変わっていない」「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」の5段階と、「⑥わからない」を設定

2. アンケートの設問に対する回答者の傾向を観察するため、DI（ディフュージョンインデックス 景気動向指数／拡散指数）の考え方を利用している。

プラスの回答ポイント－マイナスの回答ポイント＝DIとして記述している。

※DIとは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して得られた指数をいう。

マイナス100からプラス100の間を取る。

3. 集計結果では、「⑥わからない」と「無回答」を除いて、回答割合を算出している。回答率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%とならない場合がある。

・現在について 「①思う」＋「② やや思う」

・以前との比較 「①よくなっている」＋「②どちらかというとよくなっている」

⇒プラスの回答ポイント

・現在について 「④ あまり思わない」＋「⑤思わない」

・以前との比較 「④どちらかというと悪くなっている」＋「⑤悪くなっている」

⇒マイナスの回答ポイント

・DIがプラス … アンケート回答者の実感が、良好・改善の傾向にある

・DIがマイナス … アンケート回答者の実感が、停滞・後退の傾向にある

4. 調査結果では、各項目の平成 27 年度から 29 年度までの直近 3 カ年の DI の比較を行い、その数値の変化について以下の基準で記述している。また、参考として平成 23 年度の調査開始時から 29 年度への DI の推移を掲載している。

各年度間の差	状況
3 ポイント未満	変化なし
3 ～ 5 ポイント未満	大きな変化なし
5 ～ 10 ポイント未満	上昇 / 低下
10 ポイント以上	大幅に上昇 / 大幅に低下

目 次

I 調査目的および実施方法等	1
II 集計結果 ―プログラム別の状況―	5
重点プログラム1「新しい芽を育む」 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～ 1 取り組みの方向性の傾向	5
2 回答理由分類	9
重点プログラム2「命を守る」 ～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～ 1 取り組みの方向性の傾向	13
2 回答理由分類	17
重点プログラム3「環境を守る」 ～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～ 1 取り組みの方向性の傾向	21
2 回答理由分類	25
重点プログラム4「にぎわいを生む」 ～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～ 1 取り組みの方向性の傾向	29
2 回答理由分類	33
重点プログラム5「地域力を育む」 ～地域と住民の主体性が発揮される仕組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～ 1 取り組みの方向性の傾向	37
2 回答理由分類	41
III 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について	45
1 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向 ..	45
2 回答理由分類	48

Ⅳ 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）	
－優先して取り組むべき政策について－	50
1 優先して取り組むべき政策の傾向	50
2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感	52
Ⅴ 横須賀市の住み良さや定住意識について	53
1 横須賀市の住み良さについて	53
2 横須賀市への定住意識について	55
基本的な属性（F 1 ～ F 6）	61
調査票	64

I 調査目的および実施方法等

1 調査目的

- (1) 横須賀市基本計画（2011～2021）に掲げた重点プログラムの目的である「持続可能な発展に必要な都市力（都市の魅力）」の向上や、各プログラムが目指す都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、市民の実感を把握し、今後の政策・施策の改善に活用する。
- (2) 重点プログラムを効果的に推進するため、プログラムを構成する事業を検証し、今後の方向性を検討する重点政策・施策評価に活用する。

2 調査項目

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 問 1～10 | 「都市の姿を実現するための取り組みの方向性」について |
| 問 11 | 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」について |
| 問 12 | 「優先して取り組むべき政策」について |
| 問 13 | 「横須賀市の住み良さ」について |
| 問 14～16 | 「横須賀市への定住意識」について |

<基本的な属性>

F 1 性別 / F 2 年齢 / F 3 居住地域 / F 4 職業 /
F 5 世帯の状況 / F 6 居住年数

3 調査項目と重点プログラムの対応関係

アンケートの調査項目のうち、問 1～問 10 は、各重点プログラムが目指す都市の姿を実現するための取り組みの方向性に対応した設問である。

また、問 11 は、重点プログラムの目的である「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」についての設問で、いずれも、**市民の実感**を尋ねる内容となっている。

調査項目と基本計画重点プログラムの対応関係

重点プログラム		取り組みの方向性		対応する設問
1	新しい芽を育む	1－1	子どもを産み育てやすいまちづくり	問 1
		1－2	人間性豊かな子どもの育成	問 2
2	命を守る	2－1	誰もが活躍できるまちづくり	問 3
		2－2	安全で安心なまちづくり	問 4
3	環境を守る	3－1	人と自然が共生するまちづくり	問 5
		3－2	地球環境に貢献するまちづくり	問 6
4	にぎわいを生む	4－1	地域経済の活性化と雇用の創出	問 7
		4－2	集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	問 8
5	地域力を育む	5－1	地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	問 9
		5－2	地域を支えるコミュニティー機能の強化	問 10

4 調査対象および回収数

調査対象：横須賀市に在住の 15 歳以上の市民 2,000 人

（平成 29 年 4 月 1 日現在；住民基本台帳から無作為抽出）

回収数	回収率	昨年度比
571 件	28.6%	▲0.8 ポイント

5 実施方法

郵送による発送および回収

アンケートの実施に際しては、昨年度の調査同様、基本計画に掲げた重点プログラムの内容や目標、達成に向けた取り組みへの理解を促すための参考資料を同封した。

6 実施時期

平成 29 年（2017 年）4 月 18 日 ～ 5 月 9 日 ＊発送日－投函締切日

7 調査の企画・分析

横須賀市都市政策研究所で実施

II 集計結果 プログラム別の状況

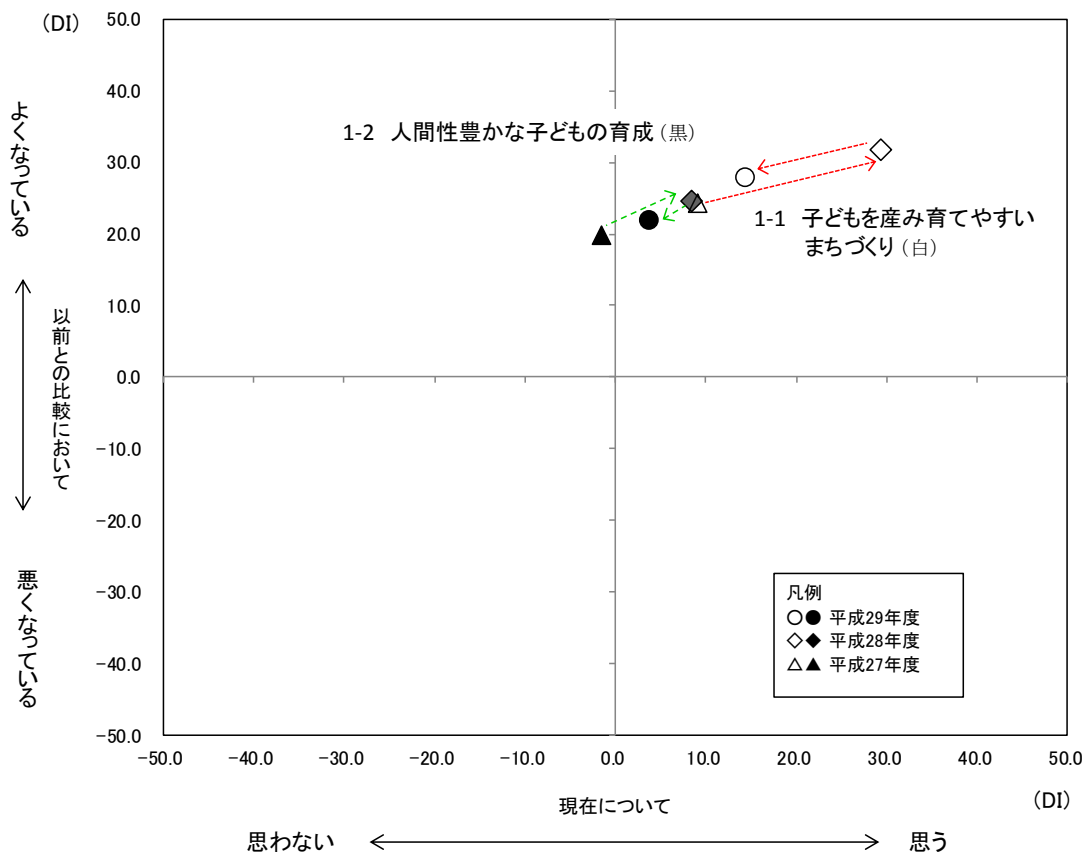
重点プログラム1 『新しい芽を育む』 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

(設問)

- 1-1 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。
1-2 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまち
だと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ－1 重点プログラム1の取り組みの方向性の状況（H29-27年度比較）



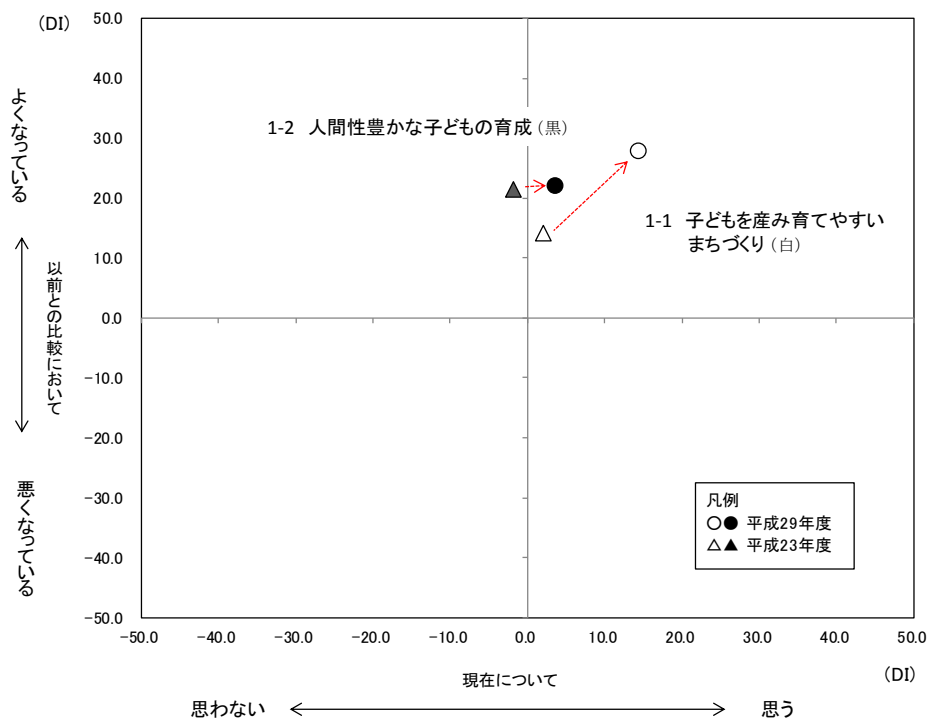
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	29年度	407	42.5	29.5	28.0	14.5	▲ 14.9	8.5	
	28年度	404	52.2	25.0	22.8	29.4	20.3		
	27年度	481	40.5	28.1	31.4	9.1	▲ 0.6		
	26年度	515	40.6	28.5	30.9	9.7	▲ 1.8		
	25年度	540	41.3	28.9	29.8	11.5	5.6		
	24年度	589	39.9	26.1	34.0	5.9	3.9		
	23年度	597	38.2	25.6	36.2	2.0	—		
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	29年度	369	34.4	35.0	30.6	3.8	▲ 4.6	5.7	
	28年度	372	37.4	33.6	29.0	8.4	10.0		
	27年度	439	32.8	32.8	34.4	▲ 1.6	▲ 0.7		
	26年度	452	32.3	34.5	33.2	▲ 0.9	▲ 10.5		
	25年度	489	39.7	30.3	30.1	9.6	9.9		
	24年度	554	34.5	30.7	34.8	▲ 0.3	1.6		
	23年度	555	31.4	35.3	33.3	▲ 1.9	—		

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①良くなっている+ ②どちらかという 良くなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	29年度	328	38.7	50.3	11.0	27.7	▲ 4.1	13.6	
	28年度	330	47.6	36.7	15.8	31.8	7.5		
	27年度	413	41.7	40.9	17.4	24.3	3.4		
	26年度	421	39.2	42.5	18.3	20.9	▲ 2.4		
	25年度	434	41.0	41.2	17.7	23.3	5.5		
	24年度	497	37.7	42.5	19.9	17.8	3.7		
	23年度	524	37.6	38.9	23.5	14.1	—		
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	29年度	289	33.6	54.7	11.8	21.8	▲ 2.9	3.2	
	28年度	292	39.4	45.9	14.7	24.7	4.7		
	27年度	359	32.8	54.3	12.8	20.0	▲ 0.2		
	26年度	377	33.2	53.8	13.0	20.2	▲ 7.4		
	25年度	406	39.2	49.3	11.6	27.6	▲ 0.4		
	24年度	444	40.1	47.7	12.1	28.0	6.5		
	23年度	476	35.3	50.8	13.8	21.5	—		

【参考】 重点プログラム1の取り組みの方向性の状況（H29-23年度比較）



(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

今回調査のDIは「現在について」「以前との比較」とともに平成27年度以降、プラスで推移しており、特に「以前との比較」は、20ポイント以上の値を維持している。

一方、「現在について」は、前年度との比較で14.9ポイントのマイナスとなり、大幅な低下となった。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
9.1 → 29.4 → 14.5	▲ 14.9 大幅に 低下	24.3 → 31.8 → 27.7	▲ 4.1 大きな 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

最も多いのは「自然環境の充実」で、海や山があり気候が温暖なことが挙げられている。次いで、「子育て支援施策や助成等の充実」、「子どもを預ける場の充実」が多く、具体的には、小児医療費助成や保育園の充実がその理由として挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

産科などの「医療体制が不十分（医師数含む）」が最も多く、次いで「医療、出産、保育、教育にかかる費用が高い、助成などの支援が不十分」が挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと言良くなっている」

「子育て支援施策や助成の充実」が突出して多く、うち8割は小児医療費助成についてである。次いで「子どもを預ける場の充実」が多く、具体的な理由の7割が「幼稚園・保育園の充実、待機児童の減少」となっている。

◆以前との比較「④どちらかというと言悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は多くないが、「現在について」と同様に、産科、小児科、総合病院などの「医療体制が不十分」が多く挙げられている。

(回答理由分類についてはP9参照)

（２）１－２ 人間性豊かな子どもの育成

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、前年度の調査からは大きな変化は見られない。

「以前との比較」については、平成 27 年度以降、プラス 20 ポイント以上の値が続いており、実感が得られているとみることができる。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
▲ 1.6 → 8.4 → 3.8	▲ 4.6 大きな 変化なし	20.0 → 24.7 → 21.8	▲ 2.9 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

市の「施策の充実」が最も多く、具体的には、学力向上、教育環境の施策の充実が挙げられている。次いで、「子どもたちの様子が元気、のびのびしている」、「イベントの開催」、「地域の子育て」等が挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

市の施策の具体的な内容が見えない、成果が見えないといった記載が最も多く、次いで「教育環境が不十分」が挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

市の「施策の充実」が多く、学力向上の取り組み、教育環境の充実などが具体的な理由として挙げられている。次いで、「変化が見える、改善されている」が挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数が少ない中、「昔のほうがよかった、学校が悪化している」とする理由が多く挙げられている。

(回答理由分類については P11 参照)

2 回答理由分類

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然が多い、海・山がある、気候が温暖など自然環境の充実	39	23.8
子育て支援施策や助成等の充実	27	16.5
小児医療費助成	(16)	
子どもを預ける場の充実	18	11.0
保育園（認定こども園）の充実、待機児童の減少	(13)	
子育て関連施設や公園などの遊び場の充実	17	10.4
公園の充実	(11)	
環境がよい、住みやすい、子育てで不便を感じない	11	6.7
子どもを見かける、若い世帯の増加	8	4.9
地域性・市民性（のんびり、穏やか）、都会と田舎の両面性	6	3.7
治安がよい、安全	6	3.7
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い	5	3.0
教育環境の充実、学校が近い	4	2.4
病院など医療体制の充実	3	1.8
その他、意見等	16	9.8
否定的な回答理由	4	2.4
	164	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分（医師数を含む）	21	18.4
産科が不十分	(17)	
小児科が不十分	(2)	
医療、出産、保育、教育にかかる費用が高い、助成などの支援が不十分	18	15.8
小児医療費助成	(8)	
公園や遊び場、子育て関連施設の不足、規制が多い	15	13.2
子どもを預ける場が不十分	14	12.3
幼稚園・保育園が不十分、待機児童数が多い	(12)	
施策が不十分	7	6.1
中学校給食がない	(6)	
他都市との比較によるサービスの不足、遅れている	6	5.3
雇用が少ない、市内で働いて子育てができない	5	4.4
人口減少、若年層の減少	5	4.4
教育施設が不十分、教育の質がよいくない	4	3.5
子どもが少ない、見かけない	3	2.6
地域の人間関係が希薄、無関心	3	2.6
その他、意見等	13	11.4
【以前の比較】	114	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策や助成の充実	32	32.7
小児医療費助成	(26)	
子どもを預ける場の充実	16	16.3
幼稚園・保育園の充実、待機児童の減少	(11)	
学童クラブの充実	(5)	
子育て関連施設や公園などの遊び場の充実	9	9.2
公園の充実	(4)	
市の努力が見える	6	6.1
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実	4	4.1
子どもを見かける、若い世帯の増加	3	3.1
大型商業施設の増加	3	3.1
事業内容を見て	2	2.0
治安がよい、安全	2	2.0
子どもに対する大人の意識の変化（目を向けている）	2	2.0
その他、意見等	15	15.3
否定的な回答理由	4	4.1
	98	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分	5	14.7
産科が不十分	(4)	
昔の方がよかった、以前の方が便利だった	5	14.7
人口減少	3	8.8
子育て関連施設や遊び場の不足、未整備	3	8.8
犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる	3	8.8
子どもを預ける場が少ない、保育園の不足	2	5.9
教育環境が不十分	2	5.9
施策の成果が見えない	2	5.9
その他、意見等	9	26.5
	34	100

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	25	26.3
学力向上、教育環境の充実	(11)	
いじめ対策	(2)	
国際コミュニケーション能力育成 (ALT)	(2)	
子どもたちの様子を見て	14	14.7
元気、のびのびしている	(5)	
あいさつをしてくれる	(3)	
イベントの開催	13	13.7
地域の子育て・教育支援体制の充実、学校と地域の連携	11	11.6
その他、意見等	10	10.5
自然環境がよい	9	9.5
環境がよい、環境整備が進んでいる	4	4.2
社会教育施設の充実	2	2.1
外国人との交流ができる	2	2.1
否定的な回答理由	5	5.3
	95	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	17	21.3
教育環境が不十分	13	16.3
教員の資質がよくない	(4)	
子どもたちの様子を見て	10	12.5
公園などの遊び場が不十分、子育て・社会教育施設が不十分	8	10
施策が不十分	4	5
大人・親がよくない	3	3.8
施策の考え方・方向性に疑問がある	3	3.8
変化を感じない	2	2.5
人口減少、若年層が増えない	2	2.5
子育て世帯への支援が不十分	2	2.5
環境を生かしていない(自然、基地など)	2	2.5
その他、意見等	14	17.5
	80	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	18	33.3
学力向上、教育環境の充実	(7)	
変化が見える、改善されている	8	14.8
公園など遊び場の充実、社会教育施設の充実	3	5.6
子どもたちの様子を見て	3	5.6
市の努力が見える	3	5.6
道路・歩道の整備	2	3.7
事業内容を見て	2	3.7
その他、意見等	13	24.1
否定的な回答理由	2	3.7
	54	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
昔の方がよかった、学校が悪化している	6	23.1
大人・親がよくない	3	11.5
施策の成果が見えない	3	11.5
公園などの遊び場が不十分	2	7.7
人口減少	2	7.7
教育環境が不十分	2	7.7
その他、意見等	8	30.8
	26	100

重点プログラム2 『命を守る』

～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

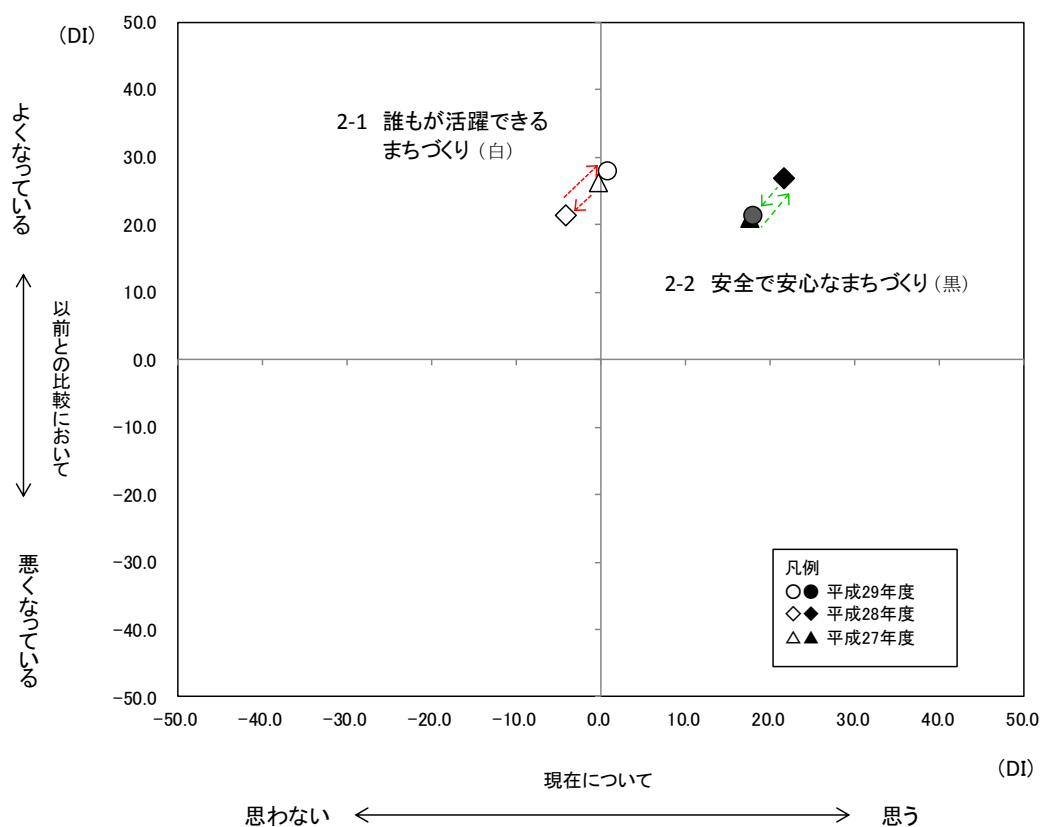
(設問)

2-1 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

2-2 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ－2 重点プログラム2の取り組みの方向性の状況（H29-27年度比較）



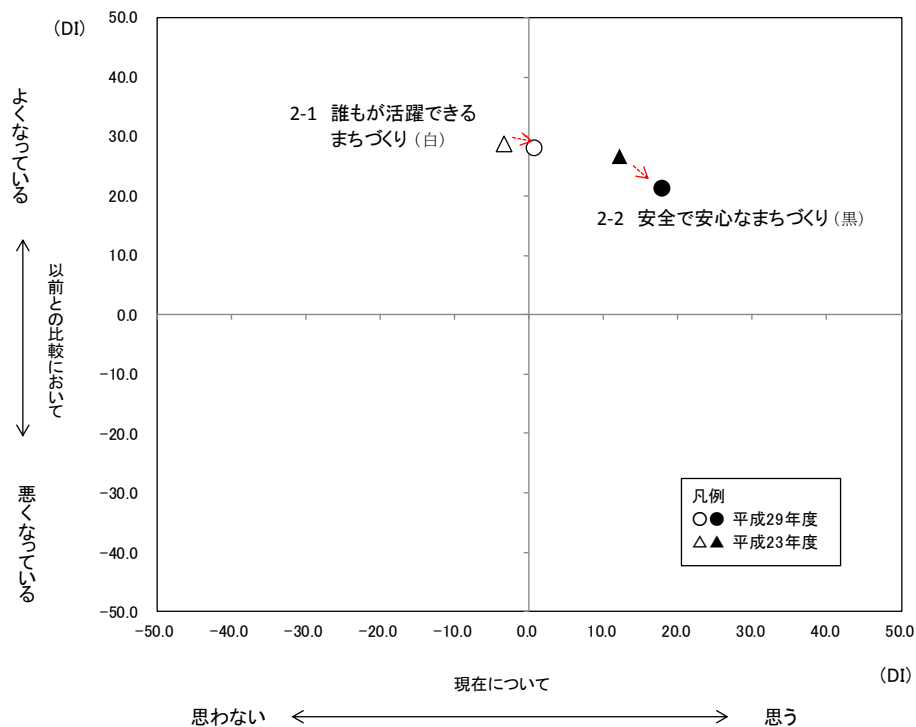
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	29年度	465	35.1	30.8	34.2	0.9	5.1	4.3	
	28年度	478	31.6	32.6	35.8	▲ 4.2	▲ 3.8		
	27年度	577	34.3	31.0	34.7	▲ 0.4	2.4		
	26年度	577	33.3	30.7	36.1	▲ 2.8	▲ 8.0		
	25年度	607	38.1	29.0	32.9	5.2	7.8		
	24年度	640	34.7	28.0	37.3	▲ 2.6	0.8		
	23年度	651	35.5	25.7	38.9	▲ 3.4	—		
(2-2) 安全で安心なまちづくり	29年度	536	46.5	25.0	28.5	18.0	▲ 3.5	5.9	
	28年度	544	47.4	26.7	25.9	21.5	4.0		
	27年度	675	45.6	26.2	28.1	17.5	2.0		
	26年度	688	44.3	26.9	28.8	15.5	9.1		
	25年度	703	40.5	25.3	34.1	6.4	3.8		
	24年度	728	39.8	22.9	37.2	2.6	▲ 9.5		
	23年度	711	44.8	22.5	32.7	12.1	—		

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①良くなっている+ ②どちらかという 良くなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	29年度	360	38.6	50.6	10.8	27.8	6.5	▲ 0.9	
	28年度	385	35.8	49.6	14.5	21.3	▲ 4.9		
	27年度	465	36.6	53.1	10.4	26.2	▲ 2.6		
	26年度	480	39.2	50.4	10.4	28.8	▲ 5.4		
	25年度	509	44.4	45.4	10.2	34.2	2.5		
	24年度	529	40.5	50.7	8.8	31.7	3.0		
	23年度	557	39.8	49.0	11.1	28.7	—		
(2-2) 安全で安心なまちづくり	29年度	456	35.1	50.9	14.0	21.1	▲ 5.7	▲ 5.6	
	28年度	473	39.7	47.4	12.9	26.8	5.8		
	27年度	586	35.8	49.3	14.8	21.0	▲ 2.5		
	26年度	601	38.0	47.6	14.5	23.5	3.8		
	25年度	619	37.6	44.4	17.9	19.7	▲ 0.1		
	24年度	638	38.0	43.9	18.2	19.8	▲ 6.9		
	23年度	645	41.0	44.7	14.3	26.7	—		

【参考】重点プログラム2の取り組みの方向性の状況（H29-23 年度比較）



(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、前年度調査から上昇した。「現在について」はマイナスの状態からプラスに転じた。また特に、「以前との比較」は3回の調査ともにプラス20ポイント以上の値で推移しており、実感の高い状態を保っている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
▲ 0.4 → ▲ 4.2 → 0.9	5.1 上昇	26.2 → 21.3 → 27.8	6.5 上昇

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備」など市の施策の充実が最も多く、ラジオ体操、市民スポーツなどの具体的な取り組みがその理由として挙げられている。次いで、活躍している人や活躍する場の増加が多く、その具体的な理由として市民活動、ボランティア活動での活躍が挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

バリアフリー対策が不十分、坂・階段が多いといった地形的な問題や交通利便性による理由が最も多い。次いで、活躍の場が少ないが挙げられており、「①思う」「②やや思う」の上位回答の「活躍する人の増加」とは対照的な結果となっている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

「現在について」と同様に、「高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備」といった市の施策の充実が最も多く挙げられ、次いで、「活躍する人の増加」が多くなっている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

高齢化やこども・若年層が少ないこと、「雇用・企業の減少」や「まちの衰退」が理由として挙げられている。

(回答理由分類についてはP17 参照)

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」はともにプラスの状況にある。「以前との比較」については、前年度調査との比較では低下したが、3年間の推移をみると20ポイントを超えるプラス値で、良好な状態を保っている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
17.5 → 21.5 → 18.0	▲ 3.5 大きな 変化なし	21.0 → 26.8 → 21.1	▲ 5.7 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「犯罪・事件が少ない、治安がよい」が多く挙げられ、突出している。ほかに、「不安や危険を感じない、安心して生活できている」など、住環境のよさや日常生活における安心感が多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

米軍基地や原子力空母に関する意見が最も多く挙げられたほか、「犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる」が多い。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

「防災・災害対策の充実」が最も多く、具体的な理由としてがけ地・急傾斜地の崩壊対策が挙げられている。また「犯罪・事件の減少」といった治安の改善も多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる」「米軍基地がある、外国からの攻撃の恐れ」が理由として多く挙げられている。

(回答理由分類についてはP19 参照)

2 回答理由分類

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備	28	25.9
健康増進施策（ラジオ体操、市民スポーツなど）	(8)	
高齢者・介護施策	(5)	
障害者施策、特別支援教育	(3)	
活躍している、活躍する人・場の増加	16	14.8
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	(8)	
高齢者・障害者の外出が多い	8	7.4
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	6	5.6
本人の意思があれば活躍できる	6	5.6
就労場所の増加	5	4.6
障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て	(2)	
高齢者や障害者への配慮ができていて、思いやりがある	5	4.6
暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	4	3.7
バリアフリー対策等	4	3.7
検診事業、病院など医療体制の充実	3	2.8
元気な人が多い	2	1.9
その他、意見等	17	15.7
否定的な回答理由	4	3.7
	108	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
バリアフリー対策が不十分、坂・階段が多い、交通が不便	19	16.1
活躍の場が少ない、活躍しているのは一部の人のみ	17	14.4
高齢者・障害者施策、支援体制や助成が不十分	14	11.9
雇用の偏り	10	8.5
高齢者の雇用が少ない	(3)	
若年層の雇用が少ない	(2)	
雇用・企業の減少	9	7.6
具体的な取り組みが見えない、分からない	8	6.8
まちが衰退している、活気がない	5	4.2
高齢化、若年層が少ない	4	3.4
PR、情報発信不足	4	3.4
差別・偏見がある	3	2.5
他都市と比較して劣っている、他都市と同じ	3	2.5
弱者に冷たい、理解がない、孤立化	2	1.7
その他、意見等	20	16.9
	118	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと言くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備	16	19.3
障害者施策	(4)	
健康増進施策（ラジオ体操、市民スポーツなど）	(3)	
活躍している、活躍する人・場の増加	11	13.3
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	(2)	
バリアフリー対策等	8	9.6
市の努力が見える	7	8.4
暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	6	7.2
福祉への理解・意識の向上、やさしくなった	4	4.8
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	4	4.8
イベント・講座の増加	4	4.8
防災対策など安全・安心面の充実	2	2.4
検診事業、病院など医療体制の充実	2	2.4
雇用・企業の増加	2	2.4
その他、意見等	15	18.1
否定的な回答理由	2	2.4
	83	100

「④どちらかというと言くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化、子ども・若年層が少ない	7	23.3
雇用・企業の減少	6	20.0
まちが衰退している、活気がない	6	20.0
他都市と比較して劣る	2	6.7
その他、意見等	9	30.0
	30	100

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件が少ない、治安がよい	47	30.5
不安や危険を感じない、安心して生活できている	30	19.5
防災・災害対策の充実	13	8.4
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	9	5.8
防犯パトロール	(5)	
防犯設備、防犯体制の充実	8	5.2
街路防犯灯	(3)	
警察の存在、警察による巡回	7	4.5
他都市と比較してよい	6	3.9
気候が温暖で災害が少ない	5	3.2
交通安全対策の充実、事故の減少、通学路・道路整備	4	2.6
地域の人間関係のつながり、意識の向上、市民共助	3	1.9
その他、意見等	15	9.7
否定的な回答理由	7	4.5
	154	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
米軍、原子力空母、核燃料関連施設、外国からの攻撃の恐れ	40	28.8
犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる	24	17.3
暴走族、若年層のバイク暴走、夜遊び	(3)	
空き巣被害	(2)	
不審者がいる	(2)	
通学路・歩道・道路の整備が不十分	15	10.8
防犯設備、防犯体制が不十分	12	8.6
街路防犯灯が少ない、夜道が暗い	(8)	
事故が多い、交通マナーが悪い、路上駐車が多い	10	7.2
山・崖の多さや津波などの災害への不安	6	4.3
防災・災害対策が不十分	6	4.3
外国人、米軍人の存在、それらによる事件	4	2.9
警察の巡回・対応が不十分、交番の場所が分からない	4	2.9
その他、意見等	18	12.9
	139	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
防災・災害対策の充実	20	22.0
崖地・急傾斜地崩壊対策	(10)	
犯罪・事件の減少、治安がよい	12	13.2
防犯設備、防犯体制の充実	10	11.0
街路防犯灯の設置	(5)	
改善されている、以前からよい	10	11.0
交通安全対策の充実、通学路・道路整備	8	8.8
努力が見える、取り組みが見える	6	6.6
地域の人間関係のつながり、意識の向上、市民共助	6	6.6
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	4	4.4
施策の充実	3	3.3
その他、意見等	8	8.8
否定的な回答理由	4	4.4
	91	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる	12	25.0
米軍基地がある、外国からの攻撃の恐れ	11	22.9
通学路・道路・歩道の整備が不十分	4	8.3
津波などの災害への不安	3	6.3
新港町への救急医療センター、公共施設の移転	2	4.2
防災・災害対策が不十分	2	4.2
その他、意見等	14	29.2
	48	100

重点プログラム3 『環境を守る』

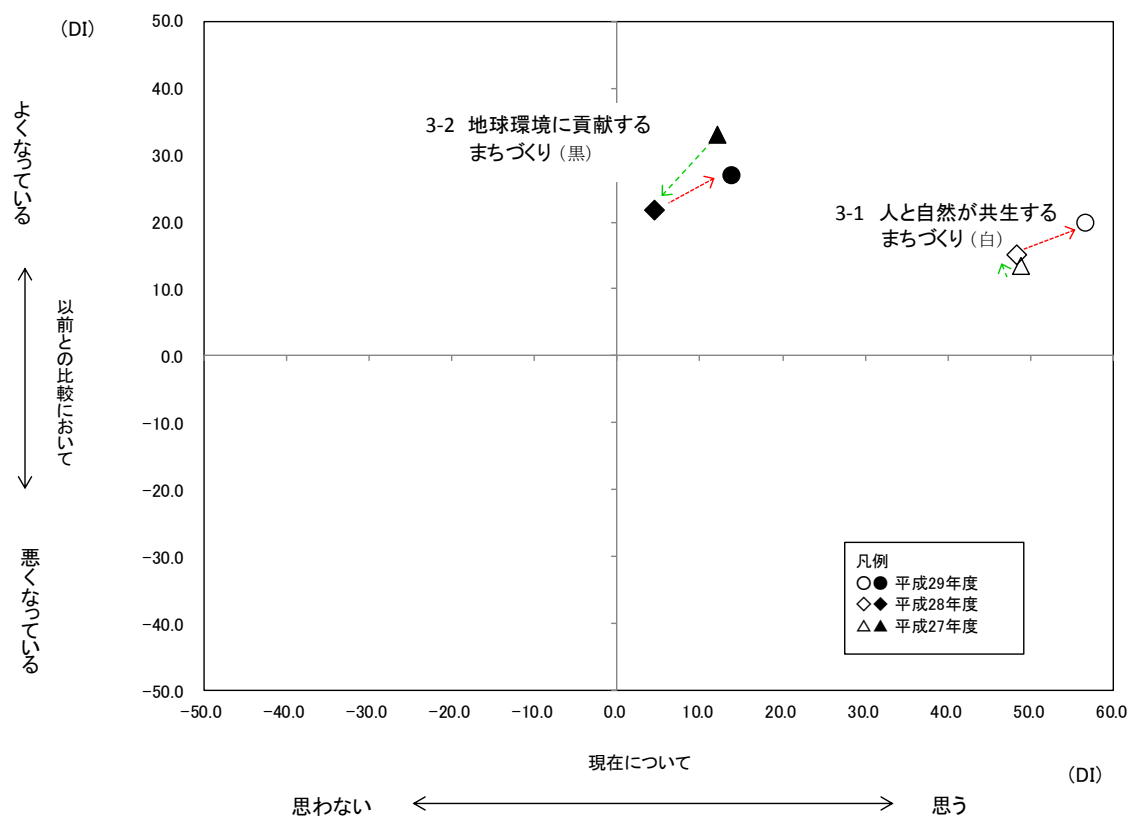
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

(設問)

- 3-1 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか
 3-2 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ－3 重点プログラム3の取り組みの方向性の状況（H28-26年度比較）



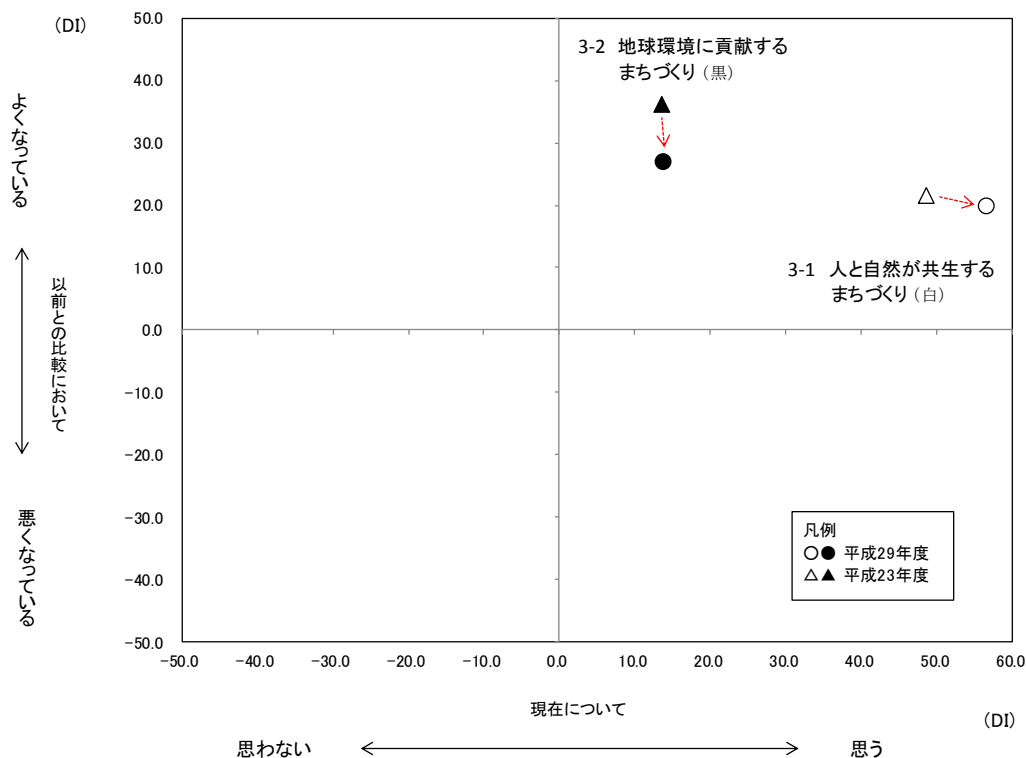
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	29年度	519	70.9	15.0	14.1	56.8	8.4	8.1	
	28年度	547	65.4	17.6	17.0	48.4	▲ 0.5		
	27年度	651	67.4	14.0	18.5	48.9	2.4		
	26年度	667	66.1	14.2	19.6	46.5	▲ 5.4		
	25年度	686	68.5	14.9	16.6	51.9	6.5		
	24年度	727	66.0	13.3	20.6	45.4	▲ 3.3		
	23年度	716	68.2	12.3	19.5	48.7	—		
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	29年度	451	41.7	30.6	27.7	14.0	9.4	0.5	
	28年度	441	35.4	33.8	30.8	4.6	▲ 7.5		
	27年度	549	40.9	30.2	28.8	12.1	4.7		
	26年度	565	40.3	26.7	32.9	7.4	▲ 18.8		
	25年度	616	50.6	25.0	24.4	26.2	8.1		
	24年度	650	45.7	26.8	27.6	18.1	4.6		
	23年度	666	43.4	26.7	29.9	13.5	—		

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①良くなっている+ ②どちらかという 良くなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	29年度	445	35.7	48.3	16.0	19.7	4.6	▲ 1.9	
	28年度	476	33.6	47.9	18.5	15.1	1.6		
	27年度	579	34.2	45.1	20.7	13.5	2.2		
	26年度	599	33.5	44.2	22.2	11.3	▲ 19.2		
	25年度	603	46.6	37.3	16.1	30.5	9.2		
	24年度	631	43.3	34.7	22.0	21.3	▲ 0.3		
	23年度	641	44.1	33.4	22.5	21.6	—		
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	29年度	370	34.6	57.6	7.8	26.8	5.0	▲ 9.3	
	28年度	375	32.5	56.8	10.7	21.8	▲ 11.3		
	27年度	470	40.7	51.7	7.6	33.1	5.0		
	26年度	501	40.5	47.1	12.4	28.1	▲ 8.7		
	25年度	532	46.6	43.6	9.8	36.8	0.4		
	24年度	553	44.7	47.0	8.3	36.4	0.3		
	23年度	584	46.2	43.7	10.1	36.1	—		

【参考】重点プログラム3の取り組みの方向性の状況（H29-23 年度比較）



(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスである。特に、「現在について」は50ポイントを超える値を示し、3年間を通して高い水準にあり良好な状態である。「以前との比較」では大きな変化は見られなかったものの平成27年度からは緩やかに上昇している。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
48.9 → 48.4 → 56.8	8.4 上昇	13.5 → 15.1 → 19.7	4.6 大きな 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「海や山などの自然が多い、緑豊か、気候がよい」「自然を身近に感じる・ふれあえる機会が多い」など本市の自然環境そのものの良さが突出して多く挙げられる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「自然の減少、自然破壊」が最も多く、次いで「市の取り組みが不十分、手入れがされていない」「自然とふれあえる場所の減少、自然が活用されていない」などが挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

「公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備」や「自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進」といった市の施策の充実に関する理由が最も多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、「自然の減少、自然破壊」が突出して多く、自由記述回答者の6割を超えている。

(回答理由分類についてはP25 参照)

（２）３－２ 地球環境に貢献するまちづくり

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、前年度との比較で上昇した。また特に「以前との比較」はプラス 20 ポイントを超える値を維持しており、高い実感が得られている状況にある。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
12.1 → 4.6 → 14.0	9.4 上昇	33.1 → 21.8 → 26.8	5.0 上昇

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実（アイクル）」が突出して多く、次いで、「地球活動・市民活動・ボランティアが盛ん」「ごみ・たばこのポイ捨ての減少、ポイ捨て防止活動・啓発」が挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない」「環境施策や取り組みが不十分」など市の取り組みが不十分である点が理由として多く挙げられているほか「ごみ・たばこのポイ捨て、不法投棄などマナーが悪い」もその理由として多く挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと言良くなっている」

「環境施策、取り組みの充実」と「分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実（アイクル）」が最も多く挙げられ、次いで、「ごみ・たばこのポイ捨ての減少、不法投棄の減少、まちがきれい」が多い。

◆以前との比較「④どちらかというと言悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないが、「環境破壊、自然の減少、自然破壊」が最も多く挙げられている。次いで「施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない」が挙げられている。

（回答理由分類については P27 参照）

2 回答理由分類

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
海や山などの自然が多い、緑豊か、気候がよい	112	43.1
自然を身近に感じる・ふれあえる機会が多い	37	14.2
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	26	10.0
公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備	25	9.6
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	14	5.4
まちづくりがよい、環境がよい、暮らしやすい	10	3.8
利便性と自然の両立、首都圏でありながら自然が多い	9	3.5
他都市と比較して自然が多い	2	0.8
その他、意見等	18	6.9
否定的な回答理由	7	2.7
	260	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然の減少、自然破壊	20	37.0
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(16)	
市の取り組みが不十分、手入れがされていない、放置	10	18.5
自然とふれあえる場所や機会の減少、自然が活用されていない	8	14.8
自然を身近に感じない	3	5.6
ごみやたばこのポイ捨てなどマナーが悪い	3	5.6
その他、意見等	10	18.5
	54	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」		※（ ）は内数	
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)	
公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備	17	22.4	
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	14	18.4	
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	9	11.8	
海・山など自然が多い	5	6.6	
地域やボランティアの清掃活動、街路樹や花壇の整備などが盛ん	4	5.3	
市全体で努力している	3	3.9	
暮らしやすい	2	2.6	
海・河川がきれいになった	2	2.6	
まちなかのみどりや花の増加	2	2.6	
その他、意見等	14	18.4	
否定的な回答理由	4	5.3	
	76	100	

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」		※（ ）は内数	
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)	
自然の減少、自然破壊	39	63.9	
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(21)		
昔の方がよかった、以前の方が便利だった	5	8.2	
自然環境の保護・保全、環境施策が不十分	3	4.9	
海が汚い	2	3.3	
空き家の増加	2	3.3	
その他、意見等	10	16.4	
	61	100	

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実(アイクル)	57	43.2
ごみ処理施設の建設	(3)	
地域活動・市民活動・ボランティア活動が盛ん	13	9.8
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、ポイ捨て防止活動・啓発	13	9.8
環境施策、取り組みの充実	11	8.3
自然が多い、まちなかのみどりが多い	7	5.3
小学生のアイクル見学、環境教育の充実	6	4.5
市民への意識啓発、市民の意識向上	4	3.0
自然環境の整備・保護	4	3.0
その他、意見等	14	10.6
否定的な回答理由	3	2.3
	132	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	22	28.2
環境施策や取り組みが不十分	16	20.5
ごみ・たばこのポイ捨て、不法投棄などマナーが悪い	12	15.4
環境破壊、自然の減少、自然破壊	6	7.7
基地、核燃料関連施設がある	3	3.8
再生可能エネルギーの利活用が進んでいない	2	2.6
その他、意見等	17	21.8
	78	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境施策、取り組みの充実	14	21.2
分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実（アィクル）	14	21.2
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、不法投棄の減少、まちがきれい	8	12.1
意識啓発、市民の意識向上	6	9.1
地域活動やボランティア活動が盛ん	6	9.1
自然環境の整備・保護、緑化	3	4.5
その他、意見等	13	19.7
否定的な回答理由	2	3.0
	66	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境破壊、自然の減少、自然破壊	7	36.8
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊	(4)	
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	4	21.1
ごみ・たばこのポイ捨て	2	10.5
その他、意見等	6	31.6
	19	100

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

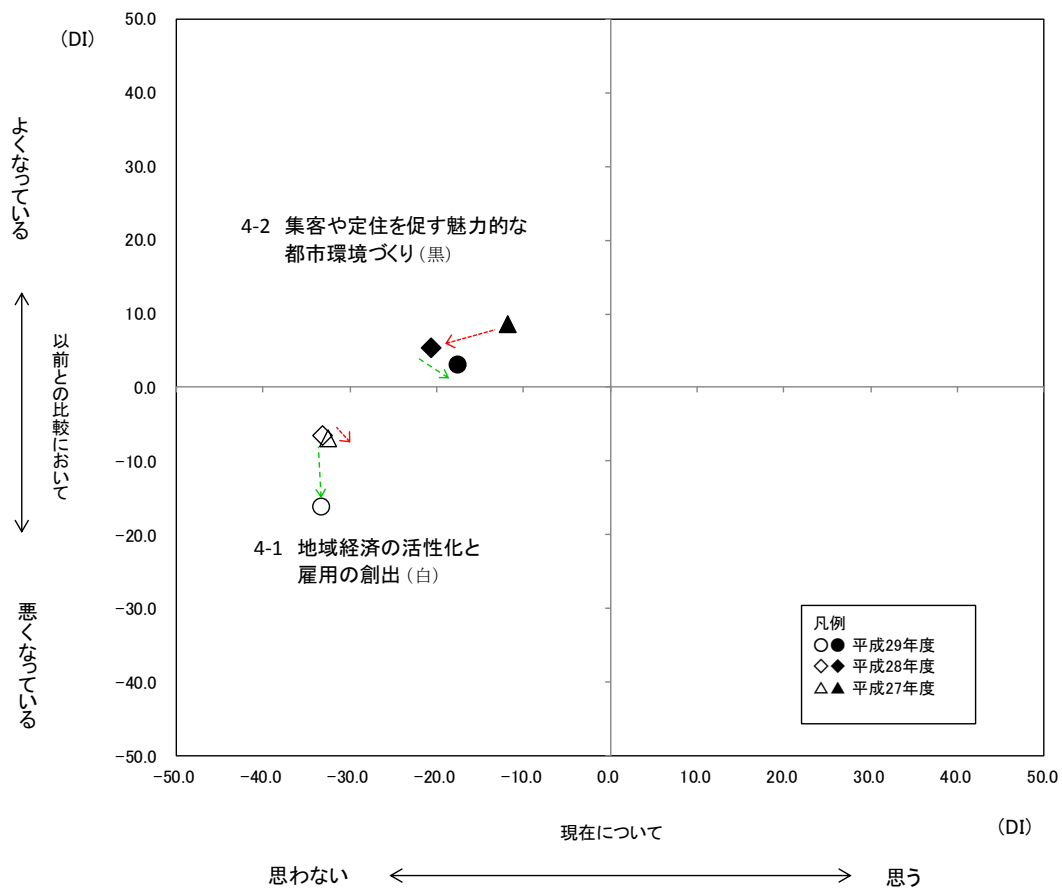
～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

(設問)

- 4-1 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。
- 4-2 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-4 重点プログラム4の取り組みの方向性の状況（H29-27年度比較）



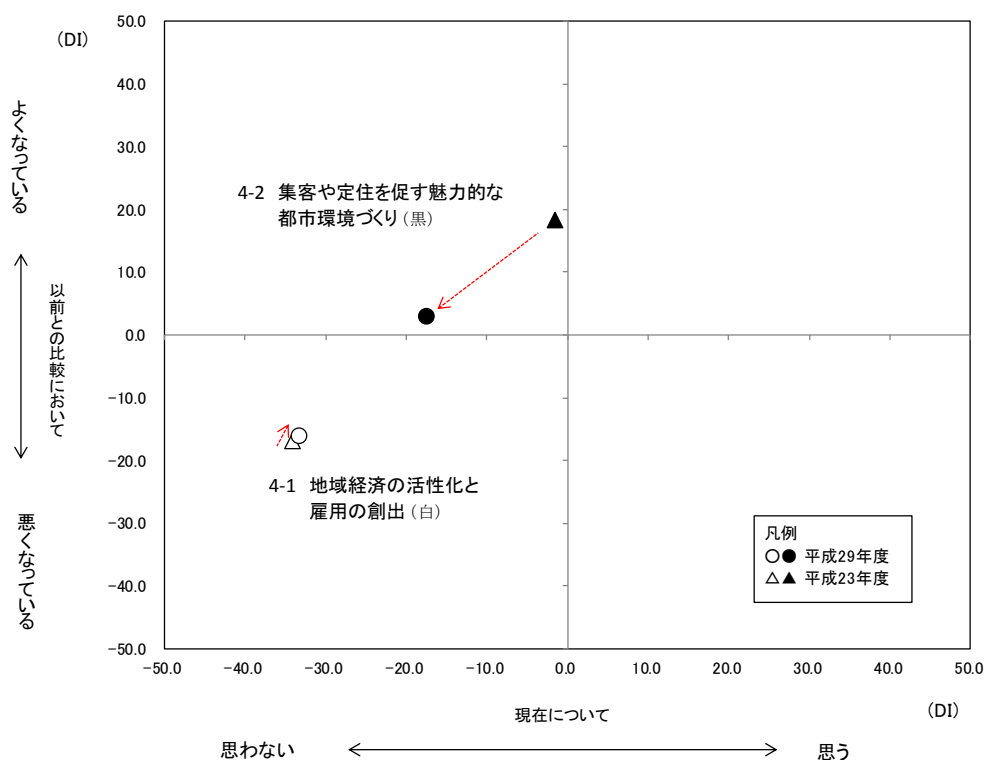
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	29年度	472	22.2	22.5	55.3	▲ 33.1	0.1	1.0	
	28年度	484	20.5	25.8	53.7	▲ 33.2	▲ 0.7		
	27年度	600	24.0	19.5	56.5	▲ 32.5	2.5		
	26年度	581	21.2	22.5	56.2	▲ 35.0	▲ 6.7		
	25年度	628	24.4	22.9	52.7	▲ 28.3	4.0		
	24年度	668	21.2	25.3	53.5	▲ 32.3	1.8		
	23年度	653	20.2	25.6	54.3	▲ 34.1	—		
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な 都市環境づくり	29年度	501	28.9	24.8	46.3	▲ 17.4	3.3	▲ 15.9	
	28年度	517	28.2	22.8	48.9	▲ 20.7	▲ 8.8		
	27年度	634	32.4	23.3	44.3	▲ 11.9	3.3		
	26年度	625	30.2	24.3	45.4	▲ 15.2	▲ 14.4		
	25年度	657	37.1	25.0	37.9	▲ 0.8	4.3		
	24年度	686	33.8	27.3	38.9	▲ 5.1	▲ 3.6		
	23年度	685	37.0	24.5	38.5	▲ 1.5	—		

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①良くなっている+ ②どちらかという 良くなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	28-23年度比	
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	29年度	410	23.7	36.3	40.0	▲ 16.3	▲ 9.8	0.5	
	28年度	436	26.8	39.9	33.3	▲ 6.5	0.4		
	27年度	524	27.4	38.2	34.3	▲ 6.9	1.4		
	26年度	519	26.4	38.9	34.7	▲ 8.3	1.7		
	25年度	557	25.9	38.2	35.9	▲ 10.0	2.9		
	24年度	577	24.8	37.4	37.7	▲ 12.9	3.9		
	23年度	595	22.2	38.8	39.0	▲ 16.8	—		
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な 都市環境づくり	29年度	439	28.9	45.1	26.0	2.9	▲ 2.4	▲ 15.4	
	28年度	453	30.2	44.8	24.9	5.3	▲ 3.2		
	27年度	540	33.1	42.2	24.6	8.5	▲ 2.4		
	26年度	557	33.3	44.3	22.4	10.9	▲ 7.5		
	25年度	581	38.9	40.6	20.5	18.4	2.5		
	24年度	598	35.8	44.3	19.9	15.9	▲ 2.4		
	23年度	609	38.0	42.4	19.7	18.3	—		

【参考】重点プログラム4の取り組みの方向性の状況（H29-23 年度比較）



(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」とともにマイナスとなっており、前年度調査と比べ「以前との比較」がさらに低下した。

特に「現在について」は3年間マイナス33ポイント前後で推移し、その値に変化がなく、実感が得られていない状況が続いている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
▲ 32.5 → ▲ 33.2 → ▲ 33.1	0.1 変化なし	▲ 6.9 → ▲ 6.5 → ▲ 16.3	▲ 9.8 低下

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「イベントなど観光事業の充実、観光客の増加」が最も多く、具体的には「イベントの開催」「軍港めぐり」などが多く挙げられている。市の施策の充実も多く、具体的な理由として「地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ」「企業誘致」の施策に関する記載が多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「働く場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出」「企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、産業の衰退」など雇用情勢等の厳しさや産業の衰退が挙げられている。また、「商店街に活気がない、空き店舗の増加」が理由として挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

「現在について」と同様に、「イベントの充実、観光客の増加」や市の「施策の充実」が多く挙げられ、具体的にはイベントやすかなごっそなど農水産物の直売所などに関する記載が多くみられる。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少」と「企業が少なく、企業・工場の撤退、産業の衰退」に関する記載が最も多く、「現在について」と同様の状況にある。

(回答理由分類については P33 参照)

（２）４－２ 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

今回調査の DI は、「現在について」がマイナス、「以前との比較」ではプラスとなった。両者ともに前年度調査と比較して大きな変化は見られず、特に「現在について」はマイナス 10 ポイント以下を推移しており、実感が得られていない状況が続いている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
▲ 11.9 → ▲ 20.7 → ▲ 17.4	3.3 大きな 変化なし	8.5 → 5.3 → 2.9	▲ 2.4 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

４－１と同様に、「イベントなど観光事業の充実、観光客の増加」が突出して多く挙げられている。次いで、「マンション・住宅地の増加」や「観光・レジャーができる自然・施設・名所がある」が挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「魅力を感じない」のほか、「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出」など現在の状況について、また「施策が不十分、新しさがない」という市の取り組みに関することが理由として多く挙げられた。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

「現在について」と同様に、「イベントなど観光事業の充実、観光客の増加」が多く挙げられたほか、「道路整備、交通利便性の向上」「マンション、住宅地の開発が進んでいる」が多く挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「現在について」と同様に、「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出」という現状に関することが理由として多く挙げられている。また、「大型商業施設の減少、魅力的な商業施設がない」も挙げられている。

(回答理由分類については P35 参照)

2 回答理由分類

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	30	34.1
イベントの開催	(10)	
軍港めぐり	(10)	
施策の充実	17	19.3
地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(9)	
企業誘致	(4)	
地域経済の活性化、商業施設、大型商業施設の増加	8	9.1
雇用の増加	6	6.8
横須賀中央や平成町などの開発	6	6.8
その他、意見等	15	17.0
否定的な回答理由	6	6.8
	88	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
働く場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出	47	24.5
企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、産業の衰退	32	16.7
商店街に活気がない、空き店舗の増加	24	12.5
施策が不十分、特色や面白みがない	23	12.0
企業誘致、産業の創出	(11)	
地域経済が活性化していない	13	6.8
人口減少・人口流出	12	6.3
中心市街地ににぎわいや活気を感じない	10	5.2
地域差がある	6	3.1
交通利便性が低い	2	1.0
観光業が弱い	2	1.0
その他、意見等	21	10.9
	192	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	14	23.3
イベントの開催	(4)	
施策の充実	13	21.7
企業誘致	(5)	
地産地消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ	(4)	
地域経済の活性化、商業施設の増加	7	11.7
雇用の増加	6	10.0
努力が見える	3	5.0
知名度の上昇	3	5.0
EV（電気自動車）の普及	2	3.3
その他、意見等	9	15.0
否定的な回答理由	3	5.0
	60	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	21	19.8
企業が少ない、企業・工場の撤退、産業の衰退	20	18.9
雇用の減少、求人が少ない、労働力人口の流出、低賃金	13	12.3
人口減少・人口流出	9	8.5
中心市街地ににぎわいや活気を感じない、開発が進まない	9	8.5
経済が活性化していない、悪化	8	7.5
施策が不十分	7	6.6
雇用対策、企業誘致	(5)	
大型商業施設の減少、買い物客の市外流出	4	3.8
その他、意見等	15	14.2
	106	100

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	26	26.0
イベントの開催	(10)	
軍港めぐり	(4)	
マンション・住宅地の増加	15	15.0
観光・レジャーができる自然・施設・名所がある	12	12.0
住みやすい	11	11.0
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	7	7.0
市の努力が見える	5	5.0
施策の充実	4	4.0
谷戸・空き家対策	(3)	
その他、意見等	14	14.0
否定的な回答理由	6	6.0
	100	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
魅力を感じない	22	14.2
定住を促す魅力的な要素がない	(11)	
他都市と比較して魅力がない・劣る	(5)	
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出	22	14.2
施策が不十分、新しさが無い	13	8.4
集客、観光などの施策が不十分	(3)	
階段・坂が多い、道路整備が不十分、交通利便性が低い	12	7.7
公共交通が不便	(6)	
空き家が多い	12	7.7
PR不足	9	5.8
魅力的な商業施設がない、買い物客等の市外流出	8	5.2
雇用・企業の減少	8	5.2
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	7	4.5
魅力的な観光資源・施設が少ない	6	3.9
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	5	3.2
変化を感じない	5	3.2
生活利便性が低い	5	3.2
税金が高い	2	1.3
その他、意見等	17	11.0
肯定的な回答理由	2	1.3
	155	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	12	19.7
イベントの開催	(3)	
道路整備、交通利便性の向上	6	9.8
マンション、住宅地の開発が進んでいる	6	9.8
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	5	8.2
市の努力が見える	5	8.2
観光・レジャーができる施設の増加	5	8.2
住みやすい	4	6.6
転入者の増加	2	3.3
その他、意見等	12	19.7
否定的な回答理由	4	6.6
	61	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出	18	24.7
大型商業施設の減少、魅力的な商業施設がない	8	11.0
施策が不十分	7	9.6
空き家が多い	6	8.2
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	5	6.8
道路整備が不十分、交通利便性が低い	4	5.5
魅力がない	4	5.5
中心市街地に活気がない	2	2.7
雇用・企業の減少	2	2.7
その他、意見等	17	23.3
	73	100

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・

地域を支えるコミュニティ機能の強化～

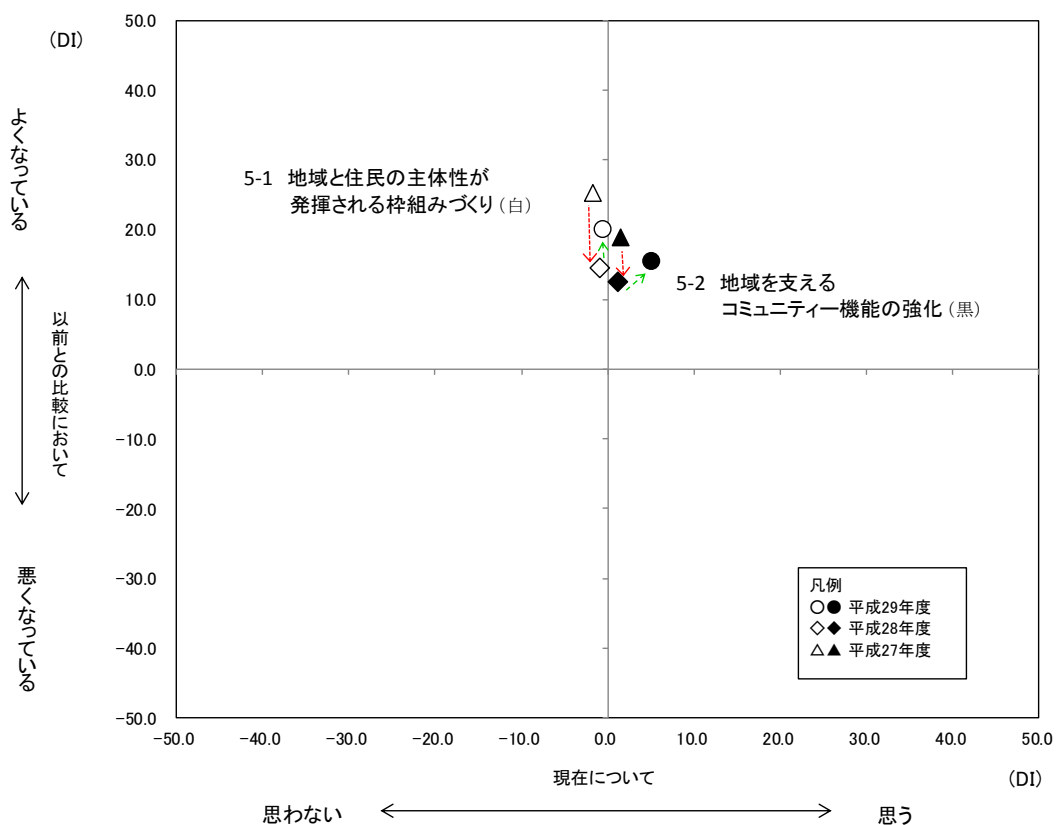
(設問)

5-1 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いますか。

5-2 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティ機能の強化」が図られているまちだと思いますか。

1 取り組みの方向性の傾向

図表Ⅱ-5 重点プログラム5の取り組みの方向性の状況 (H29-27年度比較)



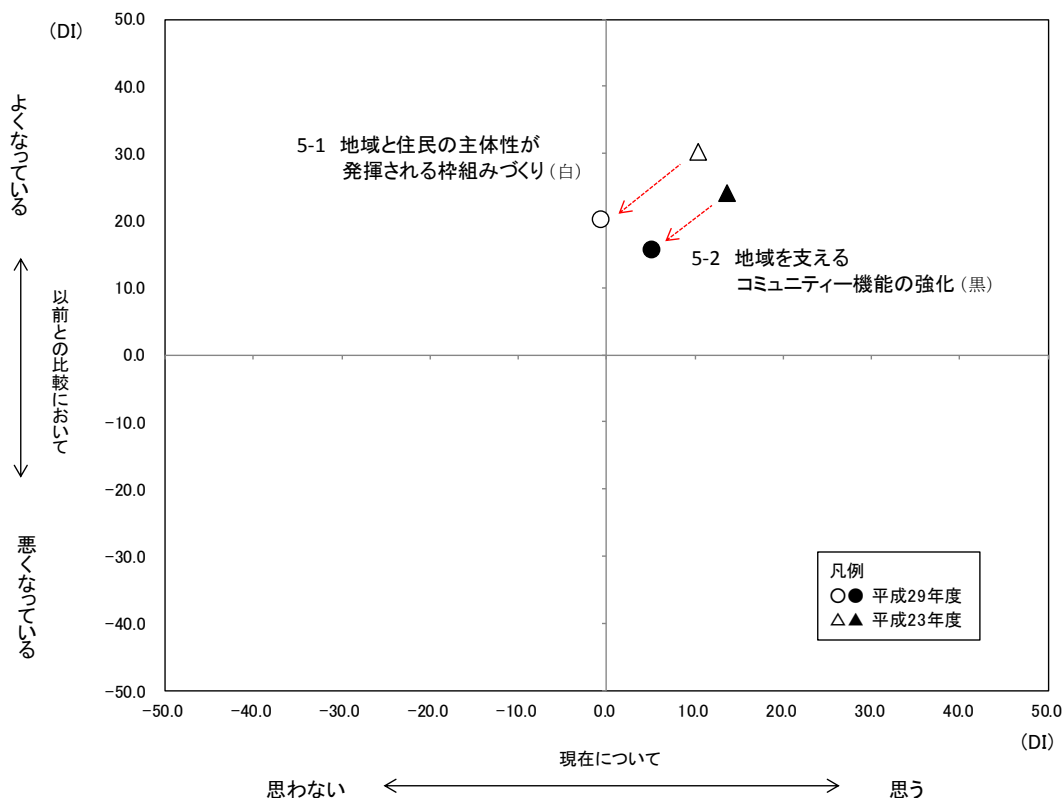
【現在について】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	29年度	393	31.8	35.9	32.3	▲ 0.5	0.4	▲ 10.8	
	28年度	411	33.6	31.9	34.5	▲ 0.9	0.8		
	27年度	501	34.7	28.9	36.4	▲ 1.7	▲ 4.2		
	26年度	499	35.3	31.9	32.8	2.5	▲ 11.4		
	25年度	578	41.9	30.1	28.0	13.9	3.8		
	24年度	597	39.9	30.3	29.8	10.1	▲ 0.2		
	23年度	599	40.8	28.7	30.5	10.3	—		
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	29年度	440	37.0	31.1	31.8	5.2	4.0	▲ 8.4	
	28年度	430	34.2	32.8	33.0	1.2	▲ 0.3		
	27年度	541	37.4	26.8	35.9	1.5	▲ 5.7		
	26年度	521	40.3	26.7	33.1	7.2	▲ 9.7		
	25年度	591	44.0	28.9	27.1	16.9	9.8		
	24年度	625	39.8	27.5	32.7	7.1	▲ 6.5		
	23年度	630	42.0	29.5	28.4	13.6	—		

【以前との比較】

取り組みの方向性	調査年度	件数(人)						(ポイント)	
			①良くなっている+ ②どちらかという 良くなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比	
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される 枠組みづくり	29年度	326	31.0	58.0	11.0	20.0	5.5	▲ 10.2	
	28年度	351	28.2	58.1	13.7	14.5	▲ 10.9		
	27年度	410	36.4	52.7	11.0	25.4	6.7		
	26年度	432	34.0	50.7	15.3	18.7	▲ 9.9		
	25年度	502	38.0	52.6	9.4	28.6	▲ 0.6		
	24年度	514	38.7	51.8	9.5	29.2	▲ 1.0		
	23年度	516	39.1	51.9	8.9	30.2	—		
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の 強化	29年度	357	28.6	58.3	13.2	15.4	2.8	▲ 8.8	
	28年度	358	29.1	54.5	16.5	12.6	▲ 6.3		
	27年度	451	34.4	50.1	15.5	18.9	▲ 2.5		
	26年度	452	34.2	52.9	12.8	21.4	▲ 9.2		
	25年度	498	41.4	47.8	10.8	30.6	2.1		
	24年度	532	39.8	48.9	11.3	28.5	4.3		
	23年度	536	36.2	51.9	12.0	24.2	—		

【参考】 重点プログラム5の取り組みの方向性の状況（H29-23 年度比較）



(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

今回調査のDIは、「現在について」がマイナス、「以前との比較」については、昨年調査から5.5ポイントのプラスとなりDIは20ポイントとなった。

「現在について」「以前との比較」ともに3年間を通してその傾向に大きな変化は見られない。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
▲ 1.7 → ▲ 0.9 → ▲ 0.5	0.4 変化なし	25.4 → 14.5 → 20.0	5.5 上昇

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が突出して多く、具体的な理由として「子ども見守り隊」「クリーン活動」についての記載が多く見られる。次いで、「行政の対応がよい、努力が見える」が多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない」が最も多く、次いで、「高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足」といった記載が多く挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が多く挙げられている。次いで、「住民の連携がよい、コミュニケーションの増加」が多く、地域住民同士の関わり合いの機会に関する記載が多くみられる。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数が少ない中、「地域の人間関係が希薄、他人任せ」「高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足」などが挙げられている。

(回答理由分類についてはP41 参照)

（２）５－２ 地域を支えるコミュニティ機能の強化

今回調査のDIは、「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、前年度調査から大きな変化はない。３年間を通して見ても大きな変化はないが、「以前との比較」は10ポイントを超えるプラス値が続いており、一定の実感が得られていると言える。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
1.5 → 1.2 → 5.2	4.0 大きな 変化なし	18.9 → 12.6 → 15.4	2.8 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

５－１と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が突出して多く、「地域のイベントがある」や「コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座の開催」など、地域に関する活動や、活動参加者の増加などについての記載が多くみられる。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない」が最も多く、次いで「活動を知らない、伝わってこない、参加する方法がわからない」や「地域活動の衰退、加入者、参加者の減少」などが挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

「現在について」と同様に、「町内会・自治会、地域活動が盛ん」が最も多く、次いで「施策の充実」が挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答数は少ないなかで、人口減少、少子高齢化等に伴う影響や、地域の人間関係の希薄化がうかがえる回答が挙げられている。

（回答理由分類については P43 参照）

2 回答理由分類

(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される仕組みづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	36	42.4
子ども見守り隊	(13)	
クリーン活動	(7)	
行政の対応がよい、努力が見える	11	12.9
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい	10	11.8
地域のイベントがある	10	11.8
自主的に取り組んでいる、市民・地域が努力している	5	5.9
市と地域の連携	2	2.4
その他、意見等	9	10.6
否定的な回答理由	2	2.4
	85	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	10	14.7
高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足	9	13.2
地域の人間関係が希薄、無関心	7	10.3
活動を知らない・伝わってこない	7	10.3
施策が不十分	7	10.3
活動しているのは一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い	5	7.4
地域住民の調和がない、排他的、新しい住民の立場が弱い	5	7.4
市民の声が市政に反映されない、どう反映されているか分からない	2	2.9
その他、意見等	16	23.5
	68	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	18	35.3
子ども見守り隊	(4)	
クリーン活動	(3)	
住民の連携がよい、コミュニケーションの増加	9	17.6
施策の充実	7	13.7
地域のイベントがある	2	3.9
その他、意見等	15	29.4
	51	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
地域の間関係が希薄、他人任せ	7	30.4
高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足	3	13.0
町内会加入者の減少、地域活動参加者の減少	3	13.0
地域のイベントの縮小	2	8.7
その他、意見等	8	34.8
	23	100

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	35	32.4
子ども見守り隊	(3)	
地域のイベントがある	13	12.0
コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座の開催	11	10.2
施策の充実	9	8.3
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい、ネットワークがある	8	7.4
地域に参加する人の増加、活動の増加、高齢者の活躍	7	6.5
自主的に取り組んでいる、地域住民が努力している	5	4.6
情報発信の充実（回覧板等）	4	3.7
その他、意見等	13	12.0
否定的な回答理由	3	2.8
	108	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	13	16.9
活動を知らない、伝わってこない、参加する方法が分からない	11	14.3
町内会・地域活動の衰退、加入者・参加者の減少	11	14.3
高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差	6	7.8
地域の人間関係が希薄、関わりがない	6	7.8
地域住民の調和がない、新住民を受け入れない	6	7.8
施策が不十分	6	7.8
一部の人のみが活動している	3	3.9
コミュニティの場がない	2	2.6
その他、意見等	13	16.9
	77	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	21	44.7
施策の充実	10	21.3
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい、ネットワークがある	3	6.4
コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座の開催	2	4.3
その他、意見等	11	23.4
	47	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
地域の人間関係が希薄、関わりがない	5	21.7
高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差	4	17.4
町内会・地域活動の衰退、加入者・参加者の減少	4	17.4
施策が不十分	3	13.0
その他、意見等	7	30.4
	23	100

Ⅲ 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について

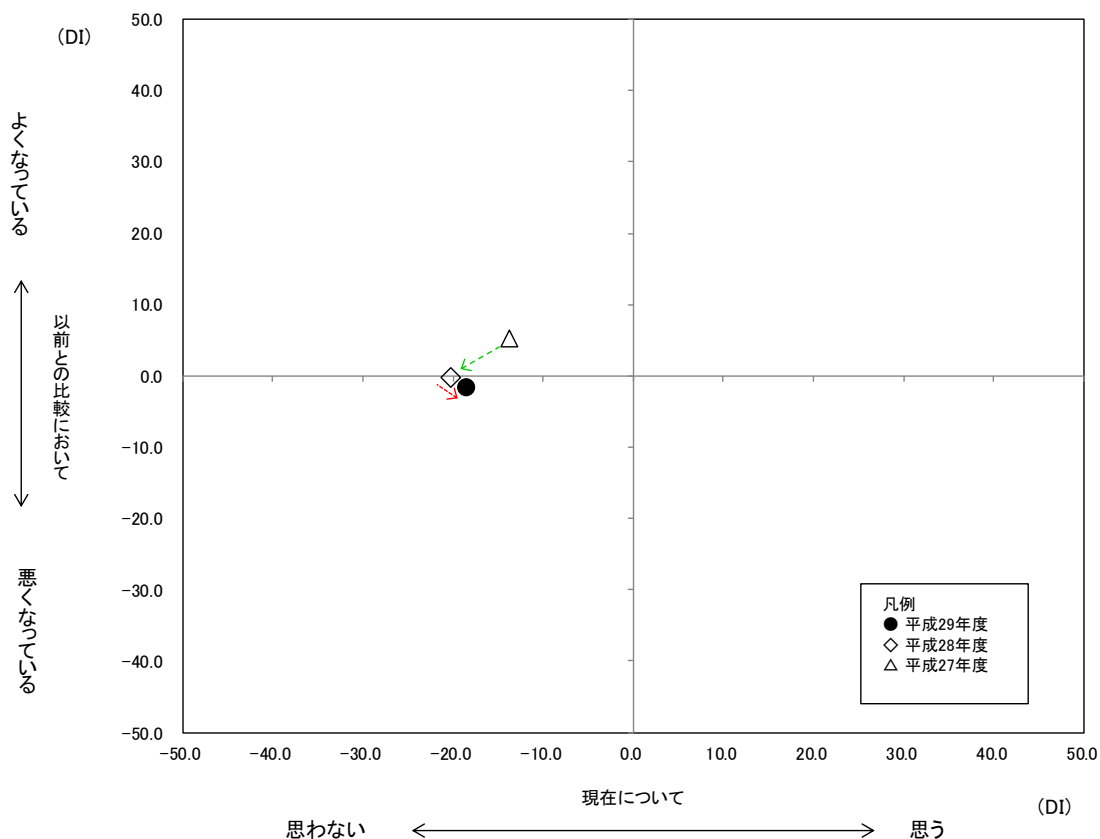
重点プログラムの狙いである「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための都市力（都市の魅力）を備えているまち」に対しての実感を尋ねた。

（設問）

横須賀市は、人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、**着実に成長できるための「都市力（都市の魅力）」を備えているまち**だと思いますか。

1 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向

図表Ⅲ－１ 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（H29-27年度比較）



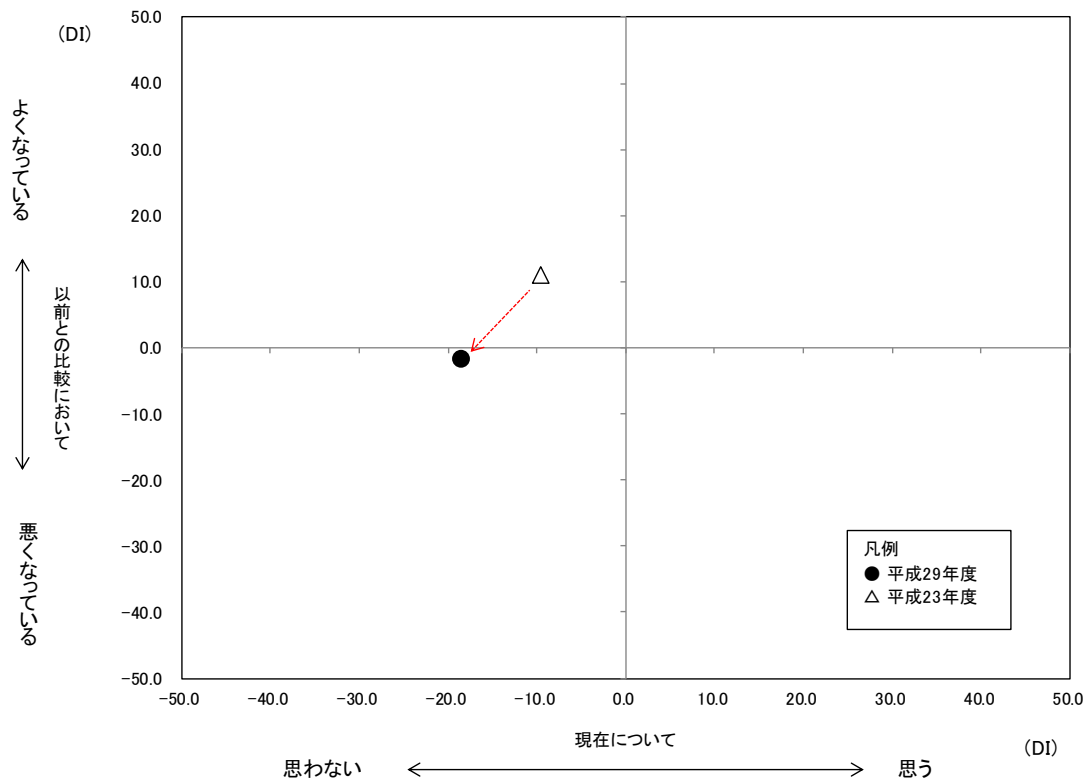
【現在について】

調査年度	件数(人)	(%)					(ポイント)				
		①思う	②やや思う	③どちらともいえない	④あまり思わない	⑤思わない	①+② (a)	④+⑤ (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比
29年度	488	11.5	18.0	22.5	30.7	17.2	29.5	47.9	▲ 18.4	1.9	▲ 10.7
28年度	514	8.2	18.7	25.9	30.5	16.7	26.9	47.2	▲ 20.3	▲ 6.5	
27年度	631	12.8	18.4	23.8	27.4	17.6	31.2	45.0	▲ 13.8	▲ 1.6	
26年度	616	11.5	19.5	25.8	27.8	15.4	31.0	43.2	▲ 12.2	▲ 2.9	
25年度	630	11.1	20.3	27.8	24.4	16.3	31.4	40.7	▲ 9.3	3.8	
24年度	671	11.2	19.2	26.1	26.2	17.3	30.4	43.5	▲ 13.1	▲ 3.5	
23年度	676	12.1	19.4	27.4	24.4	16.7	31.5	41.1	▲ 9.6	—	

【以前との比較】

調査年度	件数(人)	(%)					(ポイント)				
		①良くなって いる	②どちらかとい うと良くなって いる	③変わって いない	④どちらかとい うと悪くなって いる	⑤悪くなって いる	①+② (a)	④+⑤ (b)	DI (a)-(b)	前年度比	29-23年度比
29年度	409	3.7	20.3	50.4	14.9	10.8	28.4	28.6	▲ 1.7	▲ 1.5	▲ 12.7
28年度	426	3.8	24.6	43.0	17.8	10.8	28.4	28.6	▲ 0.2	▲ 5.4	
27年度	536	4.9	24.1	47.2	13.4	10.4	29.0	23.8	5.2	3.3	
26年度	530	5.3	22.5	46.4	15.5	10.4	27.8	25.9	1.9	▲ 5.1	
25年度	550	7.3	23.3	45.8	14.9	8.7	30.6	23.6	7.0	▲ 0.2	
24年度	561	6.4	23.5	47.4	14.1	8.6	29.9	22.7	7.2	▲ 3.8	
23年度	578	8.0	23.4	48.3	11.9	8.5	31.4	20.4	11.0	—	

【参考】 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（H29-23 年度比較）



1 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向

今回調査の DI は、「現在について」「以前との比較」とともにマイナスで、前回調査から変化は見られなかった。ただ、「現在について」は平成 28 年度の調査からからマイナス 20 ポイント前後の低い値が続いており、その実感は得られていない状況にあると言える。「以前との比較」についても平成 27 年度以降、低下傾向が続いている。

現在について		以前との比較	
DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)	DIの推移 (27年度 → 28年度 → 29年度)	年度差と状況 (対28年度)
▲ 13.8 → ▲ 20.3 → ▲ 18.4	1.9 変化なし	5.2 → ▲ 0.2 → ▲ 1.7	▲ 1.5 変化なし

【回答理由】

◆現在について「①思う」「②やや思う」

「豊かな自然環境、温暖な気候」が最も多く挙げられているほか、都市としての魅力の多さや都心へのアクセスの良さなど、都心にありながら豊かな自然を感じられるまちの魅力に関する回答が多く挙げられている。

◆現在について「④あまり思わない」「⑤思わない」

「出産・子育て施策や助成が不十分」といった施策が不十分なことに対する回答が多く挙げられているほか、「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出」が多くなっている。その他「魅力がない」の具体的な理由として「他都市と比較して劣る」「若年層にとって魅力がない」などの回答が挙げられている。

◆以前との比較「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

市の施策の充実に対する回答が多く挙げられ、中でも集客・観光に関する記述が多く、その具体的な理由として、市の取り組みの充実、観光スポットの増加、観光客の増加に関する記載が多くなっている。ほかに「生活利便性の向上、施設の充実」「魅力が増した、イメージの向上」などが挙げられている。

◆以前との比較「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

「人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出」が最も多く、次いで「雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出」「魅力がない」などが挙げられている。

2 回答理由分類

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
豊かな自然環境、温暖な気候	22	17.1
多くの魅力を備えている、可能性がある	20	15.5
都市部に近い、交通利便性が高い	15	11.6
生活利便性が高い、環境がよい、住みやすい	14	10.9
他にはない魅力を活用した集客、観光資源が豊富、知名度がある	10	7.8
施策の充実	8	6.2
歴史、豊富な文化資産	7	5.4
基地の存在	3	2.3
子育て世帯や子どもの増加	2	1.6
その他、意見等	19	14.7
否定的な回答理由	9	7.0
	129	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策が不十分、遅れている、施策に特色がない	32	18.9
出産・子育て施策や助成が不十分	(10)	
教育環境が不十分	(3)	
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出	29	17.2
魅力がない、中途半端	25	14.8
他都市と比較して劣る	(6)	
若年層・子育て世代にとって魅力がない	(3)	
市外の人にとって住みたいと思えるほどの魅力がない	(2)	
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	15	8.9
交通利便性が低い、車がないと不便、道が狭い、坂が多い	12	7.1
都市部まで遠い	(4)	
PR、情報発信不足	8	4.7
都市力を備えていない、成長がない、持続可能性がない、衰退	7	4.1
中心市街地やまちに活気がない	6	3.6
生活利便性が低い、市内で用が足せない、不便	6	3.6
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、買い物客の市外流出	5	3.0
行政の努力不足	3	1.8
成長する必要があると思わない	2	1.2
その他、意見等	19	11.2
	169	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	17	30.4
集客・観光事業の充実、観光スポットの増加、観光客の増加	(9)	
生活利便性の向上、施設の充実	11	19.6
魅力が増した、イメージの向上	7	12.5
PRの向上、知名度の上昇	5	8.9
若年層、転入者の増加	2	3.6
その他、意見等	12	21.4
否定的な回答理由	2	3.6
	56	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出	18	24.7
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	14	19.2
魅力がない	11	15.1
施策が不十分、特色がない	9	12.3
中心市街地やまちに活気がない	5	6.8
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、買い物客の市外流出	3	4.1
その他、意見等	13	17.8
	73	100

Ⅳ 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）

－ 優先して取り組むべき政策について －

「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀が着実に成長できるように、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきか」について、重点プログラムを構成する10項目の取り組みの方向性と「その他」の選択肢を設け尋ねた。

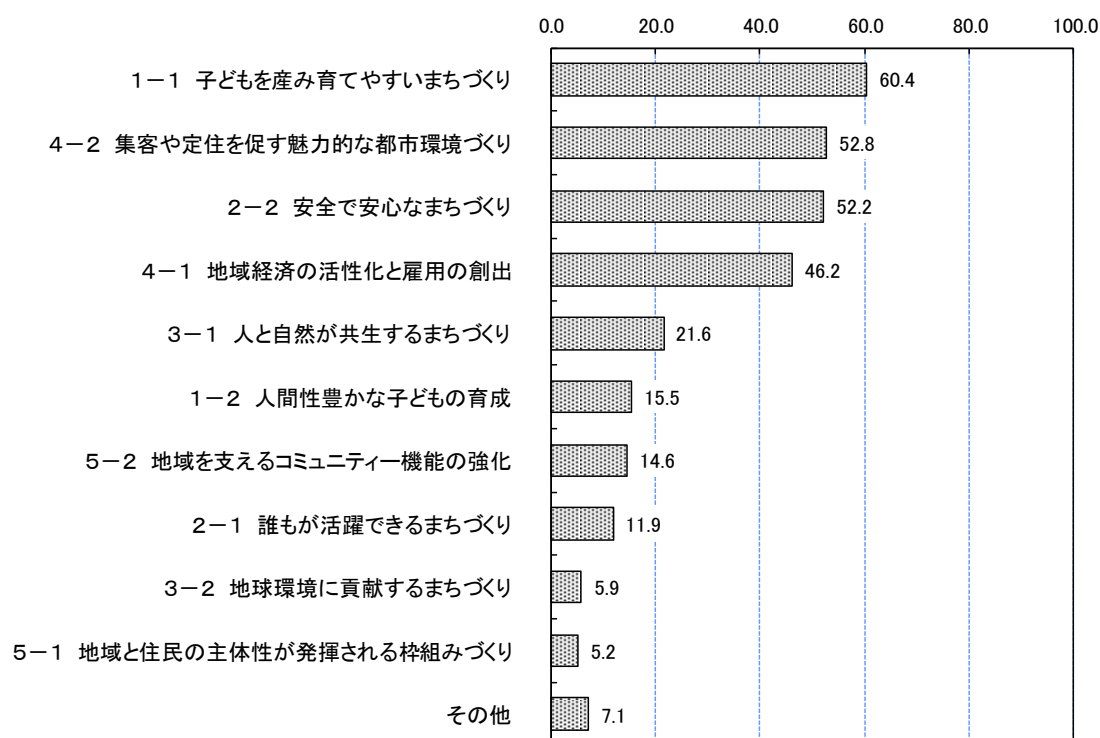
（複数回答3つまで）

1 優先して取り組むべき政策の傾向

（1）平成29年度調査結果

- ・「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」の回答割合が最も高く（60.4%）、次いで「4－2 集客や定住促進を促す魅力的な都市環境づくり」（52.8%）、「2－2 安全で安心なまちづくり」（52.2%）、「4－1 地域経済の活性化と雇用の創出」（46.2%）が選択されている。
- ・選択順位別でも、1番目の項目として「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」が最も多く選択されている（40.3%）。また、「2－2 安全で安心なまちづくり」は2番目に選択する回答者が最も多く（22.8%）、「4－2 集客や定住促進を促す魅力的な都市環境づくり」は3番目に選択する回答者が最も多い（25.3%）。

図表Ⅳ－1 「優先して取り組むべき政策」（n=561）



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表Ⅳ－２ 「優先して取り組むべき政策」（選択順位別）

プログラムおよび取り組みの方向性(順位別)		全体		1番目		2番目		3番目	
		件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
プログラム1	(1-1)子どもを産み育てやすいまちづくり	339	60.4	226	40.3	67	12.2	46	8.6
	(1-2)人間性豊かな子どもの育成	87	15.5	17	3.0	42	7.7	28	5.2
プログラム2	(2-1)誰もが活躍できるまちづくり	67	11.9	22	3.9	23	4.2	22	4.1
	(2-2)安全で安心なまちづくり	293	52.2	99	17.6	125	22.8	69	12.8
プログラム3	(3-1)人と自然が共生するまちづくり	121	21.6	22	3.9	50	9.1	49	9.1
	(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	33	5.9	5	0.9	12	2.2	16	3.0
プログラム4	(4-1)地域経済の活性化と雇用の創出	259	46.2	82	14.6	107	19.5	70	13.0
	(4-2)集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	296	52.8	65	11.6	95	17.3	136	25.3
プログラム5	(5-1)地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	29	5.2	0	0.0	6	1.1	23	4.3
	(5-2)地域を支えるコミュニティ機能の強化	82	14.6	5	0.9	18	3.3	59	11.0
その他		40	7.1	18	3.2	3	0.5	19	3.5
回答数(n)				561	100	548	100	537	100

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(2) 平成29年度－27年度調査結果

- ・平成27年度調査以降、全体的な回答割合の傾向に大きな差は見られないが、過去の調査で4位の項目であった「4－2 集客や定住促進を促す魅力的な都市環境づくり」は今回調査で2位に上昇した。

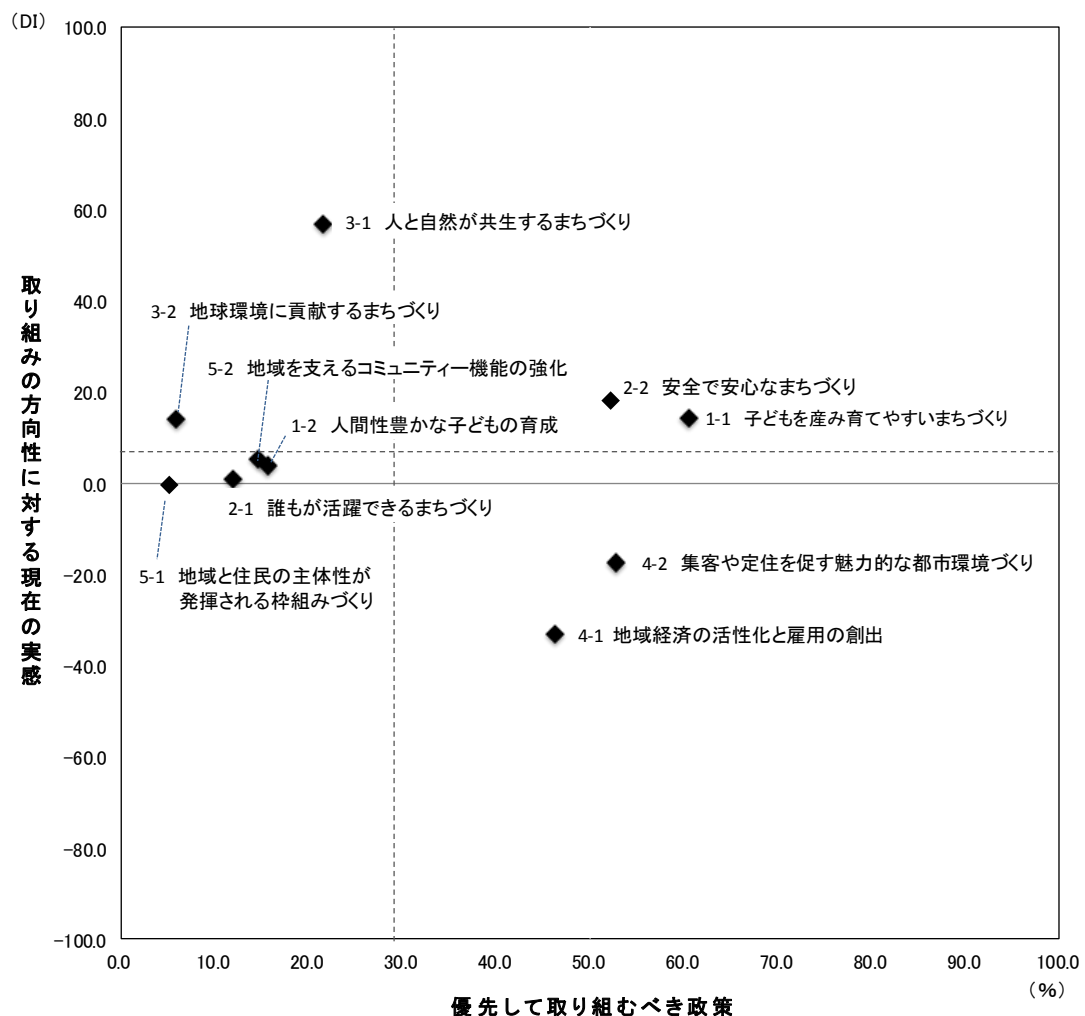
図表Ⅳ－３ 「優先して取り組むべき政策」の回答割合（H29-27年度比較）

取り組みの方向性	29年度(n=561)		28年度(n=574)		27年度(n=697)		29-28年度比	28-27年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)		
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	1	60.4	1	57.8	1	60.1	2.6	▲ 2.3
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	2	52.8	4	44.9	4	46.9	7.9	▲ 2.0
(2-2) 安全で安心なまちづくり	3	52.2	2	55.2	3	50.8	▲ 3.0	4.4
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	4	46.2	3	52.6	2	50.9	▲ 6.4	1.7
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	5	21.6	5	24.0	5	20.5	▲ 2.4	3.5
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	6	15.5	6	17.9	6	17.2	▲ 2.4	0.7
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	7	14.6	8	12.2	7	13.2	2.4	▲ 1.0
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	8	11.9	7	14.6	8	12.6	▲ 2.7	2.0
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	9	5.9	10	4.2	9	6.0	1.7	▲ 1.8
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	10	5.2	9	6.1	10	5.7	▲ 0.9	0.4
その他	—	7.1	—	7.5	—	9.2	▲ 0.4	▲ 1.7

2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感

- ・「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高く、「現在の実感」のDIが平均値より低い項目は、プログラム4の取り組みの方向性のみ。
- ・プログラム1の「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」は「優先して取り組むべき政策」の回答割合が全政策の中で最も高いが、「現在の実感」のDIでは3番目に高い。一方「1－2 人間性豊かな子どもの育成」は「現在の実感」のDIは平均値に近いものの、優先度は平均値を下回っている。
- ・プログラム2のうち「2－2 安全で安心なまちづくり」は「現在の実感」のDIが平均値より高く、優先度も3番目に高い。一方、「2－1 誰もが活躍するまちづくり」はいずれも平均値を下回っている。
- ・プログラム3とプログラム5の取り組みの方向性は、いずれも「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より低くなっている。

図表Ⅳ－4 優先して取り組むべき政策×現在の実感（H29年度）



※グラフ内の破線は、「優先して取り組むべき政策の回答割合 (%)」と「取り組みの方向性に対する現在の実感 (DI)」それぞれの平均値を示したもの (X=28.6 Y=6.2)

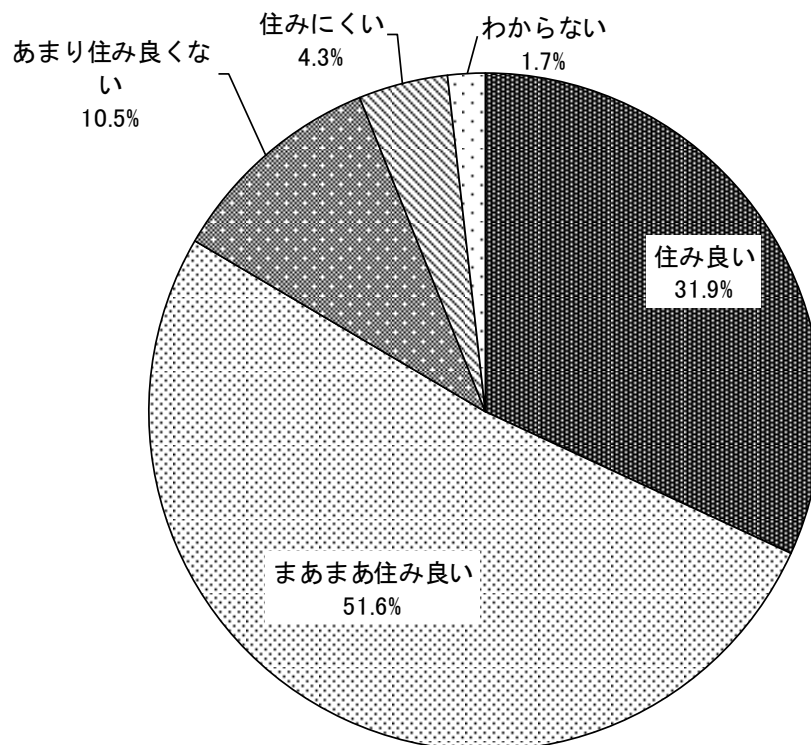
平均値の推移： 27年度 (X=28.4 Y=4.1) 28年度 (X=28.9 Y=5.5)

V 横須賀市の住み良さや定住意識について

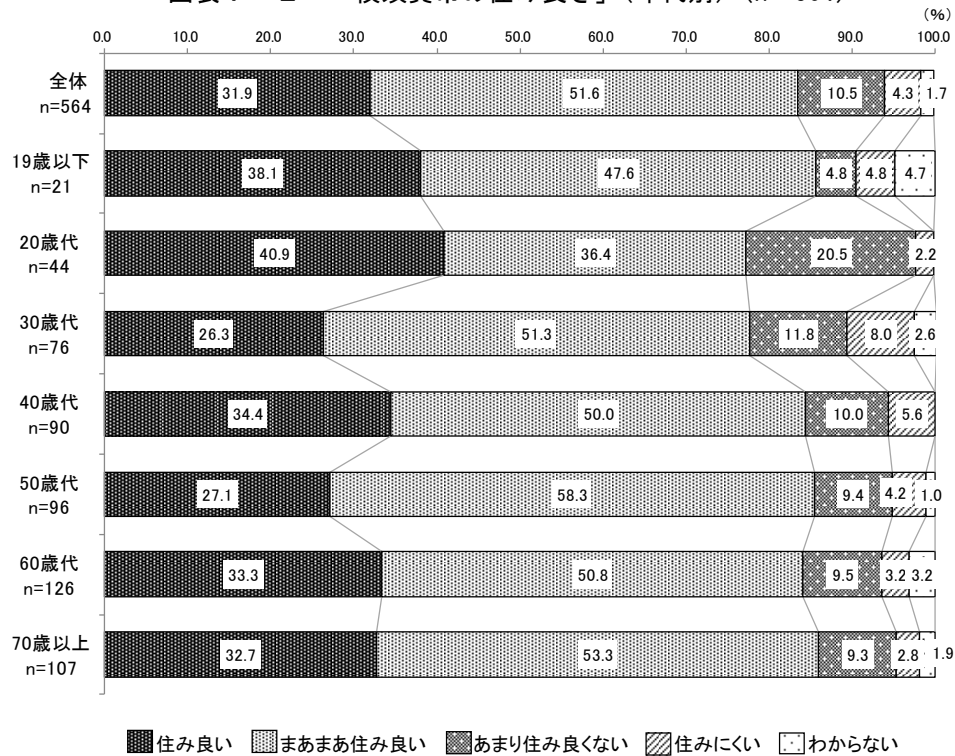
1 横須賀市の住み良さについて

- ・「住み良い」(31.9%)、「まあまあ住み良い」(51.6%)を合わせると、回答者の83.5%が住み良さを実感している状況がうかがえる。
- ・年代別の回答では、「住み良い」と「まあまあ住み良い」を合わせると、70歳以上が86.0%で最も高く、次いで60歳代と19歳以下が85.7%、40歳代が84.4%と続く。
- ・一方、20歳代が77.3%、30歳代が77.6%と低い状況にある。

図表V－1 「横須賀市の住み良さ」(n=564)



図表 V－2 「横須賀市の住み良さ」（年代別）（n=564）



図表 V－3 「横須賀市の住み良さ」（H29-27年度）

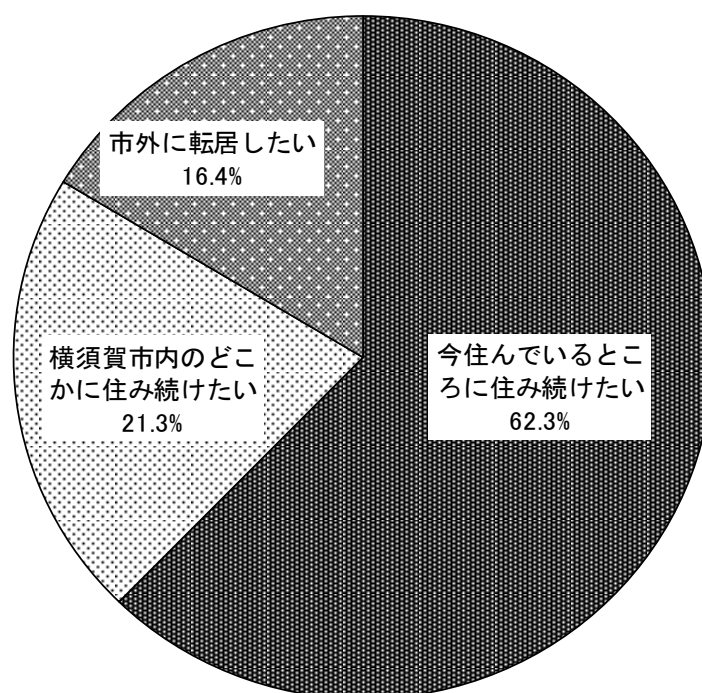
調査年度	件数(人)						(%)	
		①住み良い	②まあまあ住み良い	③あまり住み良くない	④住みにくい	⑤わからない	①+②	③+④
29年度	564	31.9	51.6	10.5	4.3	1.7	83.5	14.8
28年度	578	27.9	54.8	10.9	3.1	3.3	82.7	14.0
27年度	705	30.8	52.8	10.1	3.4	2.9	83.6	13.5

2 横須賀市への定住意識について

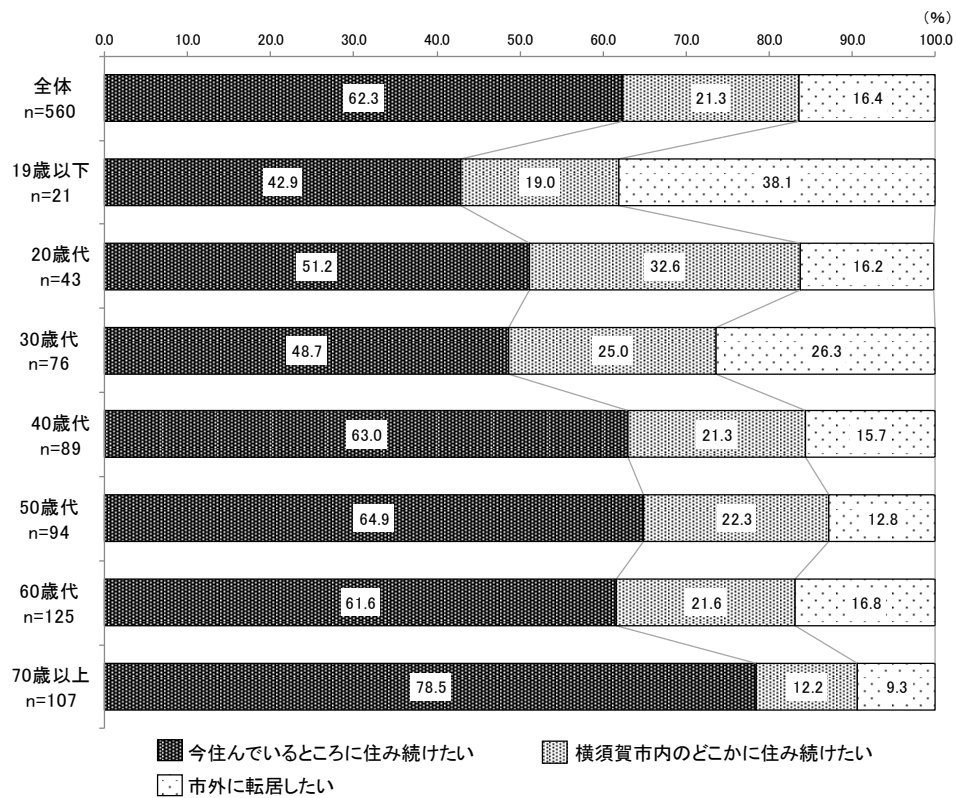
(1) 横須賀市への定住意識

- ・「今住んでいるところに住み続けたい」(62.3%)、「横須賀市内のどこかに住み続けたい」(21.3%)を合わせると、回答者の83.6%に上り、定住意識の高さがうかがえる。
- ・年代別の回答では、「今住んでいるところに住み続けたい」と「横須賀市内のどこかに住み続けたい」を合わせると70歳以上が90.7%と最も高く、次いで50歳代が87.2%、40歳代が84.3%と高い値となっている。若年層では、20歳代83.8%と高い値にあるなか、30歳代が73.7%、19歳以下は61.9%と低くなっている。
- ・全体的な傾向は、これまでの調査結果と大きな変化は見られない。

図表V-4 「横須賀市への定住意識」(n=560)



図表 V－5 「横須賀市への定住意識」(年代別)(n=560)



図表 V－6 「横須賀市への定住意識」(H29-27 年度)

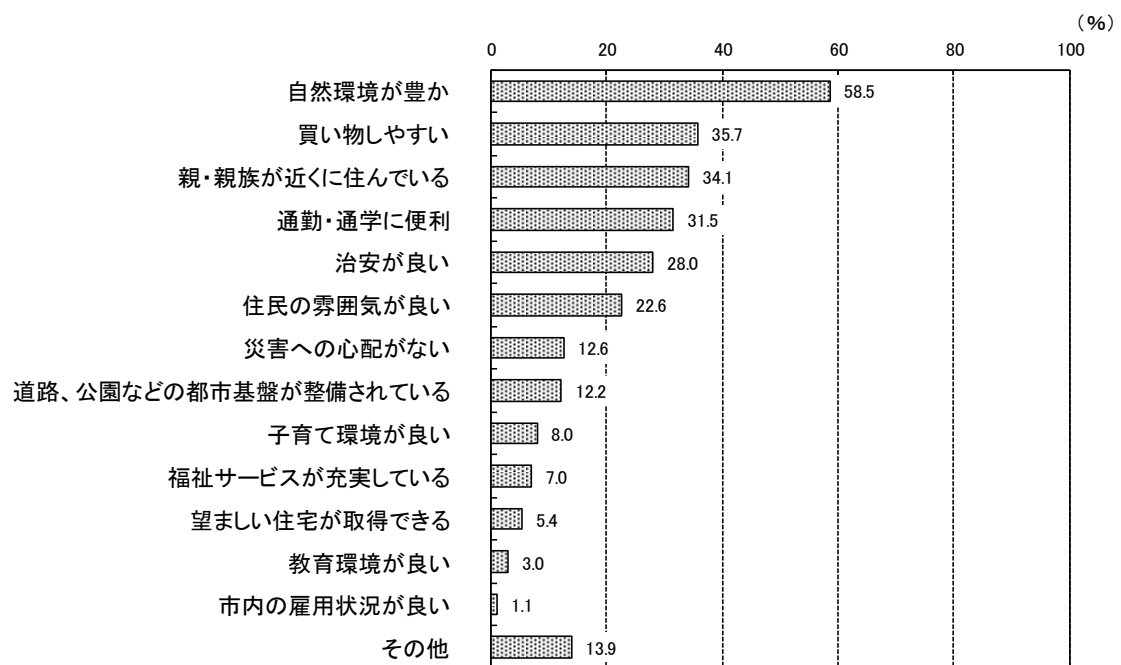
調査年度	件数(人)				(%)
		①今住んでいるところに住み続けたい	②横須賀市内のどこかに住み続けたい	③市外に転居したい	①+②
29年度	560	62.3	21.3	16.4	83.6
28年度	572	64.8	17.5	17.7	82.3
27年度	701	63.5	18.5	18.0	82.0

（２）市内に住み続けたい理由

※「①今住んでいるところに住み続けたい」「②横須賀市内のどこかに住み続けたい」を選択した回答者のみ

- ・「自然環境が豊か」（58.5%）が最も多く選択されており、次いで、「買い物しやすい」（35.7%）、「親・親族が近くに住んでいる」（34.1%）、が多く選択されている。
- ・選択順位別でも、１番目、２番目の項目ともに「自然環境が豊か」が最も多く選択されている。

図表Ⅴ－７ 「市内に住み続けたい理由」（n=468）



※回答は３つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 V－8 「市内に住み続けたい理由」（選択順位別）

市内に住み続けたい理由	全体		1番目		2番目		3番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
自然環境が豊か	269	58.5	132	28.7	90	21.0	47	12.7
買い物しやすい	164	35.7	38	8.3	76	17.7	50	13.5
親・親族が近くに住んでいる	157	34.1	64	13.9	37	8.6	56	15.1
通勤・通学に便利	145	31.5	45	9.8	56	13.1	44	11.9
治安がよい	129	28.0	60	13.0	32	7.5	37	10.0
住民の雰囲気がい	104	22.6	17	3.7	34	7.9	53	14.3
災害への心配がない	58	12.6	21	4.6	26	6.1	11	3.0
道路、公園などの都市基盤が整備されている	56	12.2	17	3.7	19	4.4	20	5.4
子育て環境がよい	37	8.0	18	3.9	11	2.6	8	2.2
福祉サービスが充実している	32	7.0	11	2.4	14	3.3	7	1.9
望ましい住宅が取得できる	25	5.4	7	1.5	11	2.6	7	1.9
教育環境がよい	14	3.0	5	1.1	7	1.6	2	0.5
市内の雇用状況がよい	5	1.1	0	0.0	5	1.1	0	0.0
その他	64	13.9	25	5.4	11	2.5	28	7.6
回答数(n)			460	100.0	429	100.0	370	100.0

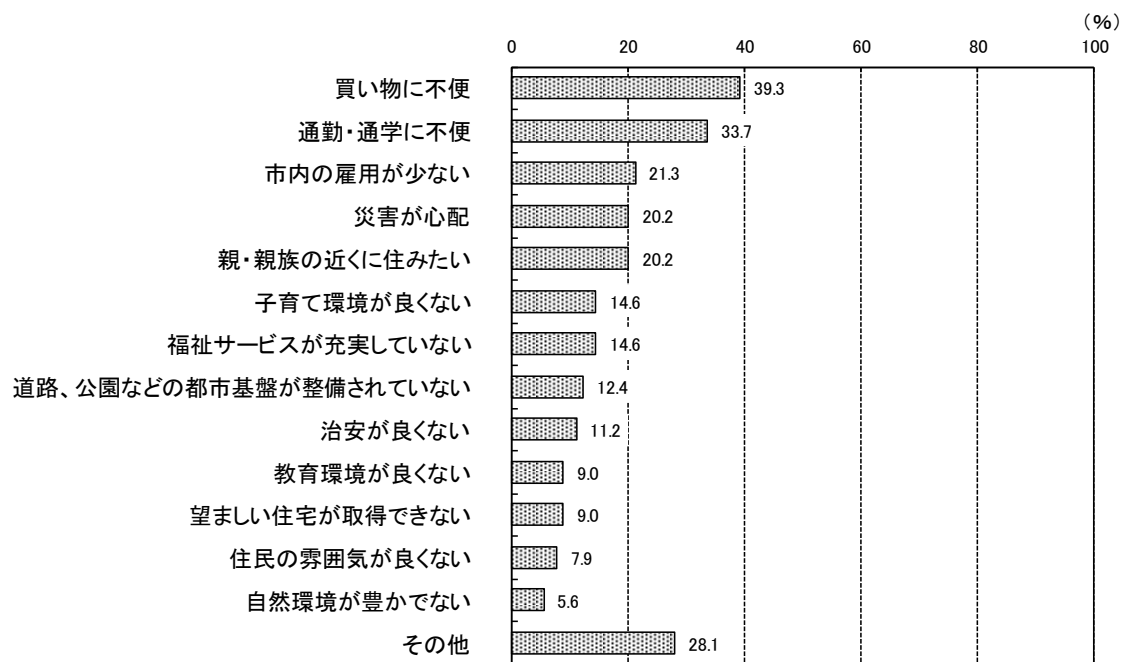
※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(3) 市外に転居したい理由

※「③市外に転居したい」(P55)を選択した回答者のみ

- ・「買い物に不便」(39.3%)が最も多く選択されており、次いで、「通勤・通学に不便」(28.7%)、「市内の雇用が少ない」(21.3%)が多く選択されている。
- ・選択順位別では、1番目の項目では「通勤・通学に不便」が最も多く、2番目の項目では「買い物に不便」が多く選択されている。
- ・「買い物に不便」については選択順位(1番目～3番目)の項目の上位の項目になっている。

図表V-9 「市外に転居したい理由」(n=92)



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表Ⅴ－10 「市外に転居したい理由」（選択順位別）

市外に転居したい理由	全体		1番目		2番目		3番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
買い物に不便	35	39.3	11	12.4	14	19.4	10	16.9
通勤・通学に不便	30	33.7	18	20.2	8	11.1	4	6.8
市内の雇用が少ない	19	21.3	6	6.7	8	11.1	5	8.5
災害が心配	18	20.2	7	7.9	6	8.3	5	8.5
親・親族の近くに住みたい	18	20.2	7	7.9	7	9.7	4	6.8
福祉サービスが充実していない	13	14.6	5	5.6	5	6.9	3	5.1
子育て環境がよくない	13	14.6	5	5.6	4	5.6	4	6.8
道路、公園などの都市基盤が整備されていない	11	12.4	4	4.5	5	6.9	2	3.3
治安がよくない	10	11.2	2	2.2	4	5.6	4	6.8
望ましい住宅が取得できない	8	9.0	2	2.2	2	2.8	4	6.8
教育環境がよくない	8	9.0	1	1.1	4	5.6	3	5.1
住民の雰囲気がよくない	7	7.9	3	3.4	1	1.4	3	5.1
自然環境が豊かでない	5	5.6	3	3.4	2	2.8	0	0.0
その他	25	28.1	15	16.9	2	2.8	8	13.5
回答数(n)			89	100.0	72	100.0	59	100.0

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

基本的な属性(F1～F6)

(1) 性別 (F1)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		29年度	28年度	27年度	29-28年度比	28-27年度比
全体	571	100	100	100		
男性	232	40.6	37.0	40.8	3.6	▲ 3.8
女性	331	58.0	59.9	57.1	▲ 1.9	2.8
無回答	8	1.4	3.1	2.1	▲ 1.7	1.0

(2) 年齢 (F2)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		29年度	28年度	27年度	29-28年度比	28-27年度比
全体	571	100	100	100		
15～19歳	21	3.7	4.6	3.5	▲ 0.9	1.1
20～29歳	44	7.7	7.8	7.9	▲ 0.1	▲ 0.1
30～39歳	76	13.3	11.9	11.6	1.4	0.3
40～49歳	90	15.8	13.1	15.0	2.7	▲ 1.9
50～59歳	96	16.8	15.7	17.4	1.1	▲ 1.7
60～69歳	127	22.2	22.7	21.9	▲ 0.5	0.8
70歳以上	109	19.1	21.5	20.5	▲ 2.4	1.0
無回答	8	1.4	2.7	2.2	▲ 1.3	0.5

(3) 居住地域 (F3)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		29年度	28年度	27年度	29-28年度比	28-27年度比
全体	571	100	100	100		
本庁地域	80	14.0	14.7	13.9	▲ 0.7	0.8
追浜地域	39	6.8	7.3	7.5	▲ 0.5	▲ 0.2
田浦地域	29	5.1	4.6	4.2	0.5	0.4
逸見地域	15	2.6	2.4	2.5	0.2	▲ 0.1
衣笠地域	74	13.0	14.3	13.6	▲ 1.3	0.7
大津地域	75	13.1	9.4	10.6	3.7	▲ 1.2
浦賀地域	73	12.8	13.3	10.6	▲ 0.5	2.7
久里浜地域	82	14.4	15.7	15.3	▲ 1.3	0.4
北下浦地域	43	7.5	6.1	9.6	1.4	▲ 3.5
西地域	51	8.9	9.0	10.0	▲ 0.1	▲ 1.0
無回答	10	1.8	3.2	2.1	▲ 1.4	1.1

(4) 職業 (F 4)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		29年度	28年度	27年度	29-28年度比	28-27年度比
全体	571	100	100	100		
農林漁業	2	0.4	0.0	0.3	0.4	▲ 0.3
自営(商店・工務店・工場等)	5	0.9	1.7	2.9	▲ 0.8	▲ 1.2
自営(サービス業)	15	2.6	2.4	2.4	0.2	0.0
会社員・公務員 (事務職・専門職・管理職)	90	15.8	17.7	17.0	▲ 1.9	0.7
会社員・公務員(販売／サービス)	53	9.2	4.7	7.8	4.5	▲ 3.1
会社員・公務員 (保安・運輸／通信・建設／労務)	28	4.9	3.6	4.3	1.3	▲ 0.7
自由業	1	0.2	0.2	0.8	0.0	▲ 0.6
家事専業	91	15.9	18.9	16.6	▲ 3.0	2.3
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	97	17.0	14.5	19.1	2.5	▲ 4.6
学生	24	4.2	5.3	4.7	▲ 1.1	0.6
無職	136	23.8	23.9	19.4	▲ 0.1	4.5
その他	21	3.6	4.7	2.5	▲ 1.1	2.2
無回答	8	1.4	2.4	2.2	▲ 1.0	0.2

(5) 世帯の状況 (F 5)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		29年度	28年度	27年度	29-28年度比	28-27年度比
全体	591	100	100	100		
単身世帯(一人暮らし)	96	16.2	16.1	16.0	0.1	0.1
夫婦のみ	157	26.6	31.3	27.6	▲ 4.7	3.7
小学生未満の子どもがいる	48	8.1	5.4	6.1	2.7	▲ 0.7
小学生～中学生の子どもがいる	59	10.0	9.2	9.4	0.8	▲ 0.2
65歳以上の高齢者がいる	106	17.9	16.1	17.0	1.8	▲ 0.9
該当なし	116	19.6	18.9	21.8	0.7	▲ 2.9
無回答	9	1.6	3.0	2.0	▲ 1.4	1.0

※複数回答

(6) 居住年数 (F 6)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		29年度	28年度	27年度	29-28年度比	28-27年度比
全 体	571	100	100	100		
1年未満	6	1.1	1.0	1.1	0.1	▲ 0.1
1～3年	33	5.8	5.0	4.2	0.8	0.8
4～9年	27	4.7	6.5	6.1	▲ 1.8	0.4
10～14年	36	6.3	5.8	6.3	0.5	▲ 0.5
15～19年	46	8.1	7.8	7.0	0.3	0.8
20～24年	46	8.1	7.8	7.8	0.3	0.0
25年以上	367	64.2	63.4	65.3	0.8	▲ 1.9
無回答	10	1.7	2.7	2.2	▲ 1.0	0.5

基本計画重点プログラム 市民アンケート

質問・回答用紙

-
- ◇ こちらの用紙には、アンケートの質問と回答欄があります。
 - ◇ 回答欄にご記入の上、3つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に封入し、平成 29 年 5 月 9 日（火）までにご投函ください。
 - ◇ ご回答いただく際の参考として、参考資料「基本計画重点プログラムについて」を同封していますので、ご参照ください。
-

重点プログラム1 『新しい芽を育む』

～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

- 問1** 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。
現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問2** 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまちだと思いますか。
現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム2 『命を守る』

～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

- 問3** 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。
現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問4** 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム3 『環境を守る』

～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

- 問5** 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか。
現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問6** 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。
現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

問7 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。

現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問8 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～

問9 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いますか。

現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問10 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティ*機能の強化」が図られているまちだと思いますか。

現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

※コミュニティ：同じ地域に暮らし、協力して地域の課題に取り組む人々の集まり

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

『持続可能な発展を遂げる都市力』について

今日、多くの自治体がそうであるように、横須賀市も人口減少や少子高齢化などの都市の持続的な発展を妨げる課題に直面しています。

これまでの設問では、この厳しい状況下で着実に成長できるための土台づくり、また、全政策・施策の先導役として基本計画に位置付けた「5つの重点プログラム」に関して、皆さまの実感をお伺いしてきました。

問 11 重点プログラムに関する設問の最後にお伺いします。

横須賀市は、人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための「都市力（都市の魅力）」を備えているまちだと思いますか。

現在についてと、以前（4～5年前）との比較について、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前との比較》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 12 人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀市が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきだと思いますか。次の選択肢から優先すべきと思う順に3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。

なお、⑪その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 子どもを産み育てやすいまちづくり
- ② 人間性豊かな子どもの育成
- ③ 誰もが活躍できるまちづくり
- ④ 安全で安心なまちづくり
- ⑤ 人と自然が共生するまちづくり
- ⑥ 地球環境に貢献するまちづくり
- ⑦ 地域経済の活性化と雇用の創出
- ⑧ 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり
- ⑨ 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり
- ⑩ 地域を支えるコミュニティー機能の強化
- ⑪ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番 目	2 番 目	3 番 目	「⑪その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい

『横須賀市の住み良さや定住意識』について

『横須賀市の住み良さや定住意識』についてお伺いします。

- 問 13** あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

回答欄

理由

選択肢

- ① 住み良い ② まあまあ住み良い ③ あまり住み良くない ④ 住みにくい
⑤ わからない

- 問 14** あなたは現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 今住んでいるところに住み続けたい ② 横須賀市内のどこかに住み続けたい
③ 市外に転居したい

※選択肢①②を選んだ方は、問 15 へ進んでください。
選択肢③を選んだ方は、10 ページの問 16 へ進んでください。

問 15 【問 14 で①または②を選んだ方に伺います。】

市内に住み続けたいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に3つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境が良い
- ② 教育環境が良い
- ③ 福祉サービスが充実している
- ④ 治安が良い
- ⑤ 災害への心配がない
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されている
- ⑦ 自然環境が豊か
- ⑧ 市内の雇用状況が良い
- ⑨ 買い物しやすい
- ⑩ 通勤・通学に便利
- ⑪ 望ましい住宅が取得できる
- ⑫ 住民の雰囲気が良い
- ⑬ 親・親族が近くに住んでいる
- ⑭ その他

回答欄【問 14 で①または②を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

問 16 【問 14 で③を選んだ方に伺います。】

市外に転居したいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に3つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

- ① 子育て環境が良くない
- ② 教育環境が良くない
- ③ 福祉サービスが充実していない
- ④ 治安が良くない
- ⑤ 災害が心配
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されていない
- ⑦ 自然環境が豊かでない
- ⑧ 市内の雇用が少ない
- ⑨ 買い物に不便
- ⑩ 通勤・通学に不便
- ⑪ 望ましい住宅が取得できない
- ⑫ 住民の雰囲気良くない
- ⑬ 親・親族の近くに住みたい
- ⑭ その他

回答欄【問 14 で③を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

あなたの健康づくりについて

少子高齢化が進む中、横須賀市では、市民の皆さまがいつまでも健康で、生きがいを持って活躍できる「生涯現役社会の実現」を目指しています。自身の健康管理に関心を持つことや、健康の維持、増進、改善などの行動が広がるように環境を整えていきます。そこで、皆さまの健康づくりについてお伺いします。

問 17 あなたは、ご自身の健康状態をどのような手段で把握していますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。【複数回答可】
なお、⑥その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

回答欄

「⑥その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい

選択肢

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① 学校・勤務先での健康診断 | ② 病院等医療機関での健康診断 |
| ③ 保健所健診センターでの健康診断 | ④ かかりつけの病院・医院での診療 |
| ⑤ 把握していない | ⑥ その他（具体的にお書き下さい） |

問 18 市内の公園等で、町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操をしていることを知っていますか。（学校の夏休み期間中のみ実施されているものを除く）
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

☐

選択肢

- ① 知っている ② 知らない

※選択肢①を選んだ方は、問 19 へ進んでください。
※選択肢②を選んだ方は、問 21 へ進んでください。

問 19 【問 18 で①を選んだ方に伺います。】
あなたは、そのラジオ体操に参加していますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

☐

選択肢

- ① 参加している ② ときどき参加している ③ 参加していない

※選択肢①②を選んだ方は、問 21 へ進んでください。
※選択肢③を選んだ方は、問 20 へ進んでください。

問 20 【問 19 で③を選んだ方に伺います。】

それはなぜですか。

選択肢からあなたのお考えに近いものを選んで回答欄に記入してください。

【複数回答可】

なお、⑥その他を選んだ場合は、具体的な理由を記入してください。

回答欄

「⑥その他」を選んだ方は、具体的な理由をお書き下さい

選択肢

- ① 実施の時間に行けない ② 近くで実施していない ③ 自宅でラジオ体操をしている
④ 日常的に運動をしている ⑤ 興味がない ⑥ その他（具体的にお書き下さい）

問 21 あなたは、30 分以上※の運動（ウォーキングや自転車での走行等を含む）をどれくらいしていますか。

選択肢から選んで回答欄に記入してください。

※30 分以上：1 日の合計で 30 分以上（例：10 分を 3 回なども含む）

回答欄

選択肢

- ① 週3日以上 ② 週2日 ③ 週1日 ④ 月2～3日 ⑤ ほとんどしない

地産地消について

横須賀市では、地場産農水産物の魅力をアピールして消費の拡大を図り、農水産業をはじめとするさまざまな産業の活性化を目指しており、よこすかポートマーケット、すかなごっそをはじめとする「よこすか地産地消ショップ※」を、積極的にPRしています。

そこで、皆さまの地産地消に対する意識についてお伺いします。

※「よこすか地産地消ショップ」では、地場産農水産物を常に取り扱っており、200店以上の販売店・飲食店が登録しています。

問 22 あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、農水産物（食材）の産地を意識しますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 意識する ② ときどき意識する ③ どちらともいえない ④ 意識しない

※選択肢①②を選んだ方は、問 23 へ進んでください。

選択肢③④を選んだ方は、問 24 へ進んでください。

問 23 【問 23 で①または②を選んだ方に伺います。】
あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、横須賀市内産の農水産物（食材）を選びますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

回答欄

選択肢

- ① 必ず選ぶ ② ときどき選ぶ ③ 選ばない ④ 見かけたことがない

観光立市について

横須賀市では、観光を産業の柱とする「観光立市よこすか」を目指すため、平成 26 年に「観光立市推進条例」を制定し、「観光立市推進基本計画」(平成 28 年度～平成 37 年度)をスタートさせました。

本市には豊かな自然と他の地域にはない価値ある歴史や色とりどりの郷土文化があって、市全体が魅力的な地域資源の宝庫になっています。

市民の皆さま、事業者、関係団体、市などがそれぞれの立場で、その価値を理解し、魅力を高めることで、観光を「新たな産業の大きな柱」として成長させ、地域経済の活性化に取り組んでいきたいと考えています。

そこで、皆さまの観光に対する意識についてお伺いします。

問 24 あなたは、横須賀市が推進している観光施策の内容(計画や事業内容など)を知っていますか。

回答欄

選択肢

- ① よく知っている ② 多少知っている ③ あまり知らない ④ 全く知らない

問 25 あなたは、横須賀市が魅力的な観光地であると思いますか。

回答欄

選択肢

- ① とてもそう思う ② そう思う ③ あまりそう思わない ④ 全くそう思わない

※選択肢①②を選んだ方は、問 26 へ進んでください。

選択肢③④を選んだ方は、問 27 へ進んでください。

問 26 【問 25 で①または②を選んだ方に伺います。】

何が一番魅力的だと思いますか。

回答欄

	「⑤その他」を選んだ方は、具体的な内容をお書きください。
--	------------------------------

選択肢

- ① 国際的な雰囲気がある ② 豊かな自然がある ③ 歴史的・文化的な遺産がある
④ グルメが楽しめる ⑤ その他

問 27 あなたは、横須賀市や観光協会などが主催するイベントに参加していますか。
例：よこすか開国祭、よこすかカレーフェスティバルなど

回答欄

☐

選択肢

- ① 積極的に参加している ② ときどき参加している ③ あまり参加していない
④ 参加したことがない。

問 28 あなたは、横須賀市内の観光スポットやイベントについて、口コミやSNS*などによる情報発信をしたことがありますか

※SNS

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で、人と人とのつながりを支援するインターネット上のサービス。

「Facebook」（フェイスブック）、「Twitter」（ツイッター）など。

回答欄

☐

選択肢

- ① 頻繁に発信している ② ときどき発信している ③ あまり発信していない
④ 発信したことがない

横須賀市の最近の動向について

横須賀市では、豊かな自然環境や近代歴史遺産、外国人との身近なコミュニケーション環境など、市が持つさまざまな特性・地域資源を生かしたまちづくりに取り組んでいます。

そこで、こうした特性・地域資源を生かした取り組みに対する皆さまの認知度についてお伺いします。

問 29 あなたは、次に掲げる具体的な取り組みについて知っていますか。
選択肢から選んで、1～4 のそれぞれの回答欄に記入してください。

選択肢

① 知っている ② 見た（聞いた）ことがある ③ 知らない

番号	具体的な取り組み	回答欄
1	津久井浜海岸での ANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会の開催 （三方を海に囲まれた特性を生かしたマリンスポーツによるまちづくり）	
2	横浜 DeNA ベイスターズのファーム施設（総合練習場、選手寮）の追浜公園への 全面移転 （スポーツ文化を生かしたまちづくり）	
3	本市を含む旧軍港4市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）の日本遺産認定※ （近代歴史遺産を生かしたまちづくり）	
4	米海軍関係者や市内の外国人家庭との交流、米海軍基地内大学への就学支援、英語 に親しむイベントの開催など、「英語が学べるまち」を目指した取り組み （英語コミュニケーション環境を生かしたまちづくり）	

※ 日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する制度です。

あなた自身のことについてお伺いします

※記入もれがあると、いただいた回答が無効になってしまうことがあります。
分析に必要なデータですので、全員の方がお答えください。

次の各項目において、あなたにあてはまるものを選んでください。

F 1 <性別>

- ① 男性 ② 女性

回答欄

☐

F 2 <年齢>

- ① 15～19 歳 ② 20～24 歳 ③ 25～29 歳 ④ 30～34 歳
⑤ 35～39 歳 ⑥ 40～44 歳 ⑦ 45～49 歳 ⑧ 50～54 歳
⑨ 55～59 歳 ⑩ 60～64 歳 ⑪ 65～69 歳 ⑫ 70～74 歳
⑬ 75 歳以上

回答欄

☐

F 3 <お住まいの地域> (次ページに地域別一覧表があります。ご参照ください。)

- ① 本庁地域 ② 追浜地域 ③ 田浦地域 ④ 逸見地域
⑤ 衣笠地域 ⑥ 大津地域 ⑦ 浦賀地域 ⑧ 久里浜地域
⑨ 北下浦地域 ⑩ 西地域

回答欄

☐

F 4 <職業>

- ① 農林漁業 ② 自営（商店・工務店・工場等）
③ 自営（サービス業） ④ 会社員・公務員（事務職・専門職・管理職）
⑤ 会社員・公務員（販売／サービス） ⑥ 会社員・公務員（保安・運輸／通信・建設／労務）
⑦ 自由業 ⑧ 家事専業
⑨ アルバイト・パートタイマー・派遣社員 ⑩ 学生
⑪ 無職 ⑫ その他

回答欄

☐

F 5 <世帯の状況（同居）> (複数回答可 ※①を選択した場合は他の選択肢を選択できません)

- ① 単身世帯（一人暮らし） ② 夫婦のみの世帯
③ 世帯に小学生未満の子どもがいる ④ 世帯に小学生～中学生の子どもがいる
⑤ 世帯に 65 歳以上の高齢者がいる（ご自身を除く） ⑥ ①～⑤に該当なし

回答欄

☐

F 6 <横須賀市に住んでいる年数>

- ① 1 年未満 ② 1～3 年 ③ 4～9 年 ④ 10～14 年
⑤ 15～19 年 ⑥ 20～24 年 ⑦ 25 年以上

回答欄

☐

ご協力ありがとうございました。

地域別一覧表

(町 名)	(地域別)
稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町	➡ ①本庁地域
浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台	➡ ②追浜地域
田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、船越町、港が丘	➡ ③田浦地域
安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町	➡ ④逸見地域
阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、小矢部、平作、森崎	➡ ⑤衣笠地域
池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸	➡ ⑥大津地域
浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、二葉、南浦賀、吉井	➡ ⑦浦賀地域
岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台	➡ ⑧久里浜地域
栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘	➡ ⑨北下浦地域
秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台	➡ ⑩西地域

基本計画重点プログラム市民アンケート報告書

発行年月：平成 29 年（2017 年） 7 月

編集・発行：横須賀市政策推進部政策推進課（都市政策研究所）

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地

電話：046-822-8258 FAX：046-822-9285